



大分市自転車活用推進計画

令和2年4月



大分市



はじめに



大分市では、環境にやさしい、機動性が高い、健康増進にも役立つなど、優れた利点を持つ「自転車」に着目し、平成18年3月に策定した「大分市自転車利用基本計画」に基づき、自転車通行空間や駐輪場の整備、放置自転車対策、自転車のルール・マナーの啓発、「OITAサイクルフェス」等のイベントの開催など、総合的に自転車に関する施策を展開してまいりました。

こうした中、平成29年5月に施行された「自転車活用推進法」に基づき、国においては平成30年6月に「自転車活用推進計画」が、大分県においては令和元年12月に「大分県自転車活用推進計画2019」が策定されました。

本市においても、計画策定から10年以上が経過し、自転車通行空間の整備など、引き続き取り組まなければならない課題に加えて、サイクルツーリズムやモビリティとしての役割の検討など、新たな課題にも対応していくことが求められています。

こうしたことから、国や大分県の自転車活用推進計画を踏まえるとともに、「大分市自転車利用基本計画」の取組を検証し、その成果や課題等を反映した「大分市自転車活用推進計画」を新たに策定しました。

今後は、本計画に基づき、引き続き「バイシクルフレンドリータウン～自転車が似合うまち～の創造」に向けて、「都市環境」「健康」「観光」「思いやり（安全・安心）」の分野における課題等に対応した各種施策に取り組んでまいります。

結びに、本計画の策定に当たり、多大なご尽力を賜りました策定委員会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました市民並びに関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。

2020（令和2）年4月

大分市長 佐藤 樹一郎

この計画書には、平成17年度から実施している「自転車が似合うまちおおいだ」をテーマとした標語コンクールの入賞作品を随所に掲載しています。自転車の魅力はもちろん、自転車ルール・マナーの大切さ、自転車を通じた人と人とのふれあいなど、さまざまな市民の思いが詰まった作品です。これらを読むだけできっと自転車に乗りたくなることでしょう。心地良い風を感じに自転車で出かけてみませんか？

もくじ

第1章 計画の概要

1. 背景	2
2. 「大分市自転車利用基本計画」と本計画の関係	2
3. 計画期間	3
4. 計画対象区域	3
5. これまでの経緯	4
6. 計画の位置付け	5
7. 大分市の自転車に関連する計画	6
8. 自転車施策における課題の変化	7

第2章 現状把握

1. 自転車の特性	10
2. 国内の自転車利用動向	10
3. 大分市の自転車利用実態	13
4. アンケート調査結果	17

第3章 「大分市自転車利用基本計画」の検証

1. 「大分市自転車利用基本計画」と国の計画との関連性	20
2. 取組毎の検証	21
3. 検証のまとめ	47

第4章 課題の整理

1. 課題の抽出	50
2. 課題の整理	52

第5章 基本計画

1. 基本方針	54
2. 目標	55
3. 施策の体系	57

第6章 具体的な取組

目標1 自転車で 便利で快適、きれいなまち おおいた

都市
環境

1. 安全で快適な通行空間づくり————— 60
2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり————— 63
3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり————— 66

目標2 自転車で 心と体が元気になるまち おおいた

健康

4. 情報発信等による自転車利用の促進————— 67
5. サイクルスポーツの普及促進————— 68

目標3 自転車で たくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまち おおいた

観光

6. 自転車を活かした観光・地域振興の推進————— 69
7. サイクルツーリズムの推進————— 70

目標4 自転車に みんなが正しく乗れる安全・安心なまち おおいた

思い
やり

<安全・安心>

8. 安全な自転車等の普及促進————— 71
9. 自転車ルール・マナーの啓発————— 72
10. 災害時の自転車活用方策の検討————— 75

第7章 推進体制

1. 本計画の推進————— 78
2. 本計画のアクションプラン（下位計画）の推進————— 78
3. 県や関係自治体、関係団体等との連携————— 78

資料編



第1章 計画の概要





1 背景

国ではこれまで、自転車に関する課題への対応として、自転車道の整備、放置自転車対策、交通事故防止対策等に取り組んでおり、一定の成果を上げてきました。

このような中、自転車の活用による環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等を図ることなど新たな課題に対応するため、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における自動車への依存の程度を低減することによって、公共の利益の増進に資すること等を基本理念とする「自転車活用推進法」（平成 28 年法律第 113 号）が平成 29 年 5 月 1 日に施行されました。

国は、この自転車活用推進法第 9 条に基づき、平成 30 年 6 月に「自転車活用推進計画」を策定しました。自転車活用推進計画は、自転車の活用の推進に関する総合的かつ計画的な推進を図るための、我が国の自転車の活用の推進に関して基本となる計画として位置付けられています。

また、国の自転車活用推進計画を踏まえつつ、自転車活用推進法第 10 条に基づき、大分県は令和元年 12 月に「大分県自転車活用推進計画」を策定しました。

こうした動向を踏まえ、大分市においては、自転車活用推進法第 11 条に基づき、「大分市自転車活用推進計画」（以下、「本計画」）を策定することとしました。

2 「大分市自転車利用基本計画」と本計画の関係

大分市では、自転車を活かした特色あるまちづくりを推進するため、平成 18 年 3 月に「大分市自転車利用基本計画」を策定しました。

この計画に基づき、かつて多く見られた放置自転車等、不十分な自転車走行環境、自転車ルール・マナーが浸透していない等の自転車を取り巻く様々な問題や課題に対し、「バイシクルフレンドリータウン～自転車が似合うまち～の創造」を基本方針として、自転車の特性を活かしながらハード・ソフト両面から総合的・複合的に取り組みました。

一方、計画策定から 10 年以上が経過する中で、依然として残る課題や、新たな課題への対応が求められています。

本計画は、国等における自転車施策への取組方針が新たに示されたこの機会を捉え、国や県の自転車活用推進計画を踏まえながら、また「大分市自転車利用基本計画」の取組について検証し、その成果や課題等を本計画に引き継いで反映することにより、新たに大分市版の自転車活用推進計画として策定するものです。





3 計画期間

計画期間は5年間とし、最初の2年をⅠ期、次の3年をⅡ期と位置付けます。Ⅰ期の終了年度である令和3年度に国の動向等を踏まえながら必要に応じて修正します。Ⅱ期の最終年において、計画の進捗や成果を検証するとともに、社会情勢の変化等を踏まえながら計画を見直します。

■ 計画期間

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
計画期間	Ⅰ期		Ⅱ期						
見直し等		必要に 応じて 修正			見直し				
国・県の 自転車活用 推進計画	国								
	大分県	見直し							

4 計画対象区域

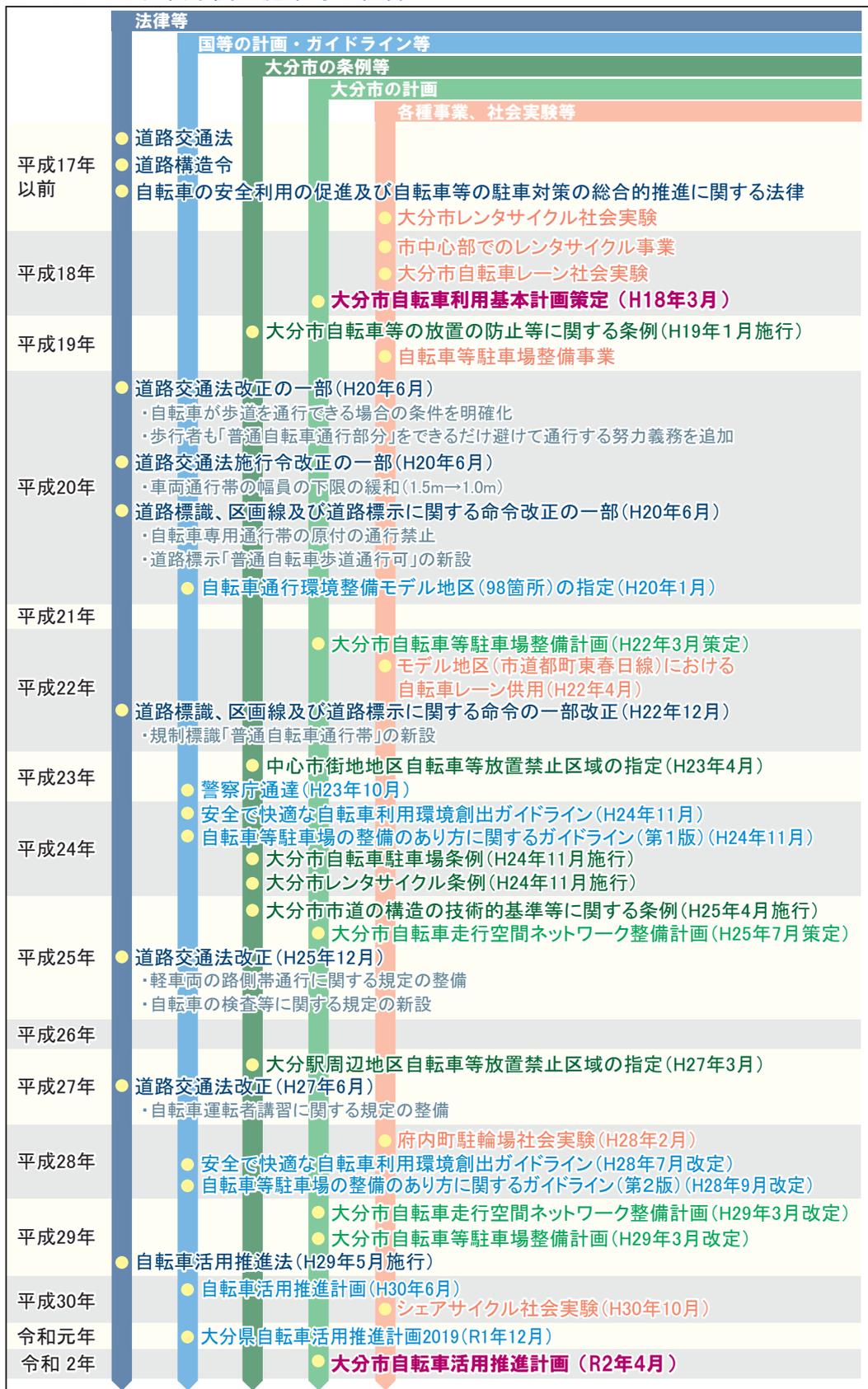
計画対象区域は、大分市全域とします。



5 これまでの経緯

大分市では、平成18年の「大分市自転車利用基本計画」策定以降、国等の動向を踏まえながら自転車に関する様々な取組を行ってきました。その経緯を以下に整理します。

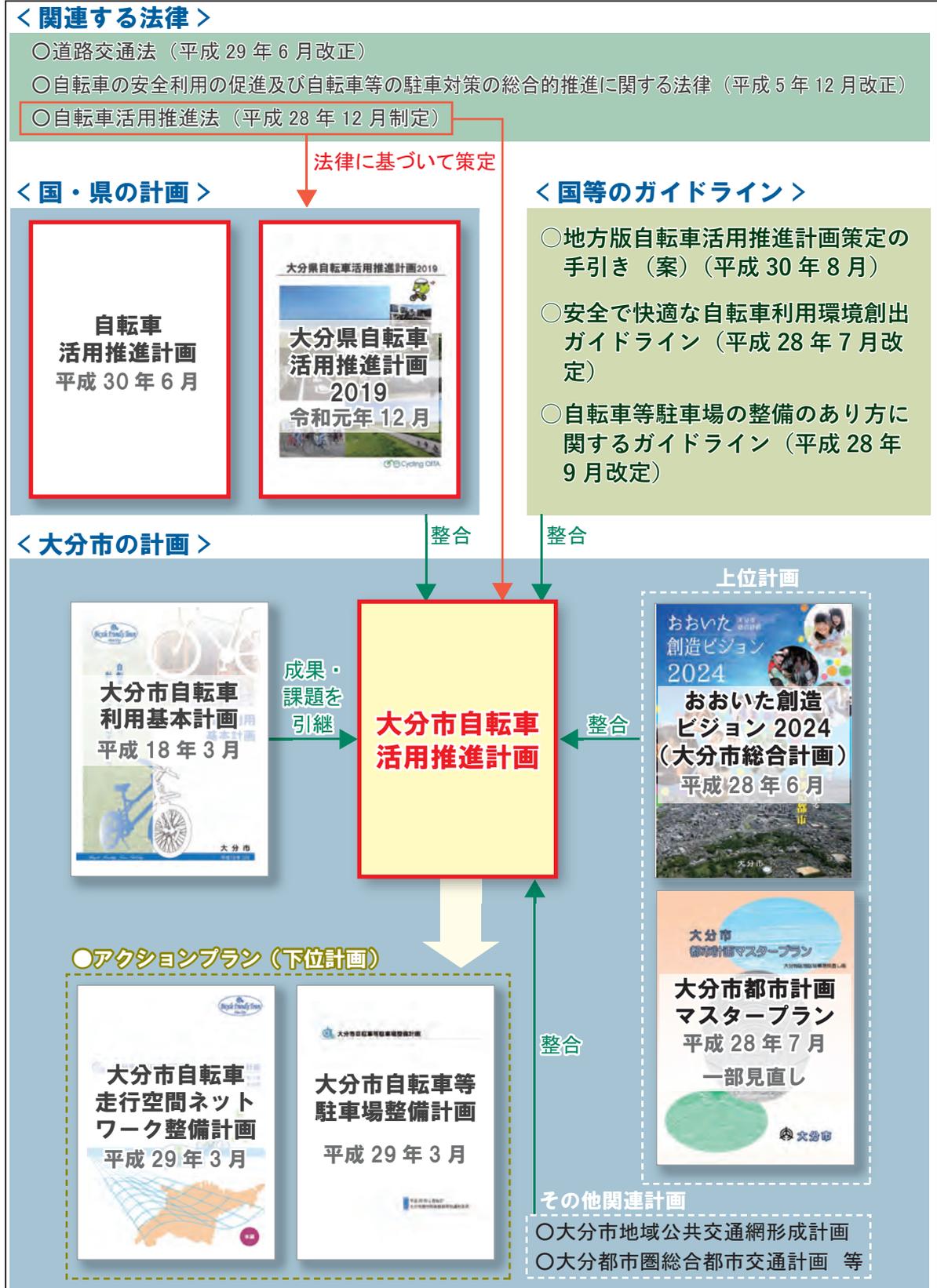
■これまでの自転車関連施策等の経緯



6 計画の位置付け

本計画は、大分市や国・県等の上位計画及び関連法に基づいて定めるものであり、大分市におけるその他の自転車関連計画や交通関連計画と整合した計画とします。

■計画の位置付け



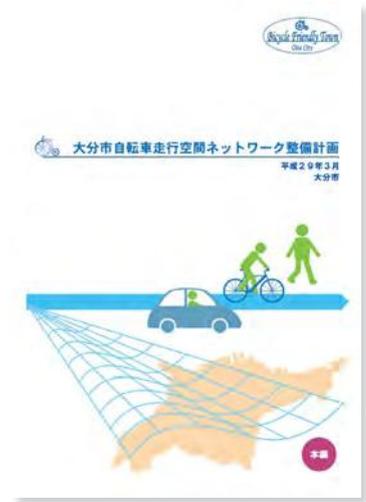


7 大分市の自転車に関連する計画

(1) 大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画

＜平成25年7月策定、平成29年3月改定＞

「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」は、安心・安全・快適に走行できる環境づくりと意識づくりをハード・ソフト両面から進めるとともに、歩行者をはじめとする交通弱者はもとより、全ての道路利用者にとって安心・安全な道路環境並びに快適で利便性の高い自転車走行空間の創出を効率的かつ効果的に推進することを目的としています。



(2) 大分市自転車等駐車場整備計画

＜平成22年3月策定、平成29年3月改定＞

「大分市自転車等駐車場整備計画」は、中心市街地内における自転車利用環境の差が生じていることやきめ細かな駐輪需要への対応など、新たな課題に対応するとともに、自転車利用の促進など利便性の面も考慮しながら自転車等駐車場（以下、「駐輪場」）の整備を推進するための整備方針を定め、自転車を取り巻く環境の向上と自転車利用の促進を図ることを目的としています。



つくろうよ 自転車の町 大分を

平成18年度標語コンクール 小学校高学年の部 最優秀作品

8 自転車施策における課題の変化

(1) これまでの動向を踏まえた整理

平成17年度の「大分市自転車利用基本計画」策定時から現在に至るまで、社会状況や自転車施策に関する課題が変化し、法律の制定や改正、国のガイドラインの改定等が行われてきました。

自転車走行空間については車道原則がより強く意識されるとともに、以前は大きな課題であった駐輪場整備や放置自転車対策は以前に比べて対応が充実しました。その他、新たな課題への対応が求められています。

■これまでの動向を踏まえた整理

課題の分類				課題や取組み状況の変化	
				以前 (H17年頃)	現在
ハード整備	自転車走行空間	車道	自転車道	双方向もOK	一方通行を推奨
			自転車レーン	整備を推進する	
		路面標示	標準仕様が無い	仕様の標準化	
	歩道	暫定形態	自歩道	状況に応じ活用	原則選択しない
	駐輪場整備	駐輪需要への対応		推進する	推進する
放置自転車対策					
ソフト整備	自転車利用者	自転車の整備点検等の促進		—	要新規対応
		自転車ルール・マナー啓発		推進する	推進する
		総合的な取組			
まちづくり	都市環境	公共交通との連携		推進する	推進する
		レンタサイクル			
		コンパクトシティへの対応			
	観光	自転車を活用した体験型コンテンツの充実	各種イベントの実施	推進する	推進する
			インバウンドへの対応	—	要新規対応
		サイクリング環境の整備		推進する	推進する
	災害対策	災害時の自転車の活用		—	要新規対応
健康増進	日常的な自転車利用促進		推進する	推進する	
	余暇的な自転車利用促進				
	サイクリングスポーツの環境づくり		—	要新規対応	

自転車の 上にかがやく みんなの笑顔

平成18年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品



(2) 新たに対応が求められる主な課題

① 自転車の整備点検等の促進

自転車の安全利用と安全意識の醸成を図るため、安全な自転車の整備点検の促進、安全性の高い自転車や自転車損害賠償責任保険の普及促進が必要です。

② コンパクトシティへの対応

コンパクトシティの形成等のまちづくりを進める上で、自転車の利用促進は移動手段確保の観点から重要とされています。今後は、コンパクトシティを意識した都市のあり方を踏まえながら、自転車を活かした交通ネットワークの構築を目指す必要があります。

③ インバウンドへの対応

日本が世界に誇りうるナショナルサイクルルートの創設に向けて、インバウンドにも対応した走行環境の構築やサイクリングガイドの養成、先進的なサイクリング環境の構築等が求められています。

国では太平洋岸自転車道等を対象とした先進的なサイクリング環境の整備を目指すモデルルートの設定が検討されており、地域の現状を踏まえながら、サイクリストの受入れ環境の構築に積極的に取り組むことなどにより、世界にアピールできるような自転車利用環境を構築することが求められています。

④ モビリティとしての新たな位置づけ

自転車はこれまでも重要なモビリティ(移動手段)としての役割を担ってきました。今後は、将来的な普及が予測される MaaS^{*}に代表されるようなサービスにおいて、自転車は端末交通を担う重要なモビリティの一つとして位置づけられ、その重要性はさらに増していくものと考えられます。特に、シェアサイクルは MaaS と親和性の高い重要な取組です。

※ MaaS: 「Mobility as a Service」の略でマースと読む。出発地から目的地までの複数の移動手段を組み合わせた移動方法が検索サービスによって提案され、その予約や決済がオンライン上で一括して行えるサービスのこと。公共交通機関を活用した移動の最適化により、環境負荷の低減にも役立つと考えられている。

⑤ 災害時の自転車の活用

東日本大震災後、ガソリン等を使わず手軽に利用できる自転車が災害発生時に有用な交通手段として見直され、特に震災直後の被災地では通勤手段として自転車を利用する人が増加しました。

自転車は災害時にも有用である点をアピールすることや、災害時に利用できる自転車を配備し、日常的に整備点検しておくこと等が考えられます。

⑥ サイクルスポーツの環境づくり

自転車は身近な乗り物でありながら、スポーツとして楽しんでいる人は限られています。様々な自転車関連イベント等でサイクルスポーツに興味を持ってもらうとともに、サイクルスポーツを楽しめる空間や機会の創出を図り、青少年の体力の向上や市民の余暇の充実に寄与することが望まれています。



第2章 現状把握





1 自転車の特性

自転車には、以下に示すような様々な特性を有しています。これは、他の交通手段にはないものであり、将来にわたる快適で便利な市民生活や市民の健康づくり、大分市の特色あるまちづくりなど、多様な面でその特性を活用していくことが必要です。

■自転車の特性の整理

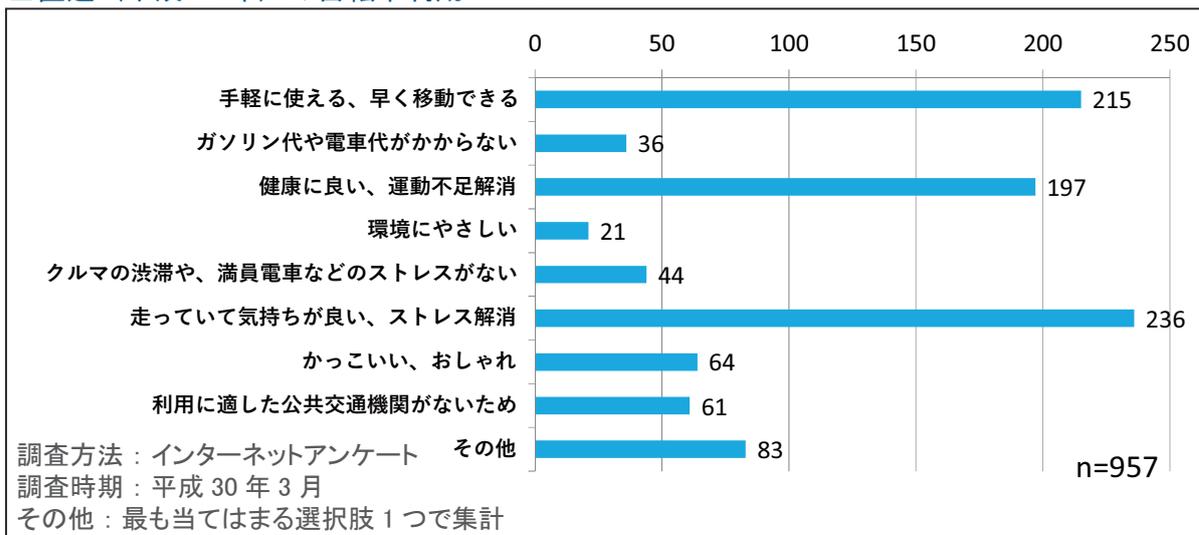
自転車の優れた特性	
<p>◆ 心身への良い効果</p> <p>① 心身の健康への良い影響</p> <p>② 手軽に始めやすい運動</p>	<p>◆ 災害時の移動手段として有用</p>
<p>◆ スポーツ・レジャーとしての魅力</p>	<p>◆ 都市・社会への効果</p> <p>① 都市のスペースの有効活用</p> <p>② 交通渋滞緩和</p> <p>③ 事業所における健康経営</p>
<p>◆ 優れた経済性</p>	<p>◆ 環境への効果</p> <p>① CO₂ を排出しない</p> <p>② 騒音が無い</p>
<p>◆ 利便性</p> <p>① 手軽で便利、柔軟かつ高いアクセス性</p> <p>② 高い定時性、迅速性</p> <p>③ 電動アシスト自転車等が持つ可能性</p>	

2 国内の自転車利用動向

(1) 自転車の利用ニーズ

平成30年の国土交通省の調査によれば、自転車利用の理由は、「走っていて気持ちが良い、ストレス解消」、「手軽に使える、早く移動できる」、「健康に良い、運動不足解消」の順に多くなっています。

■直近（平成30年）の自転車利用ニーズ

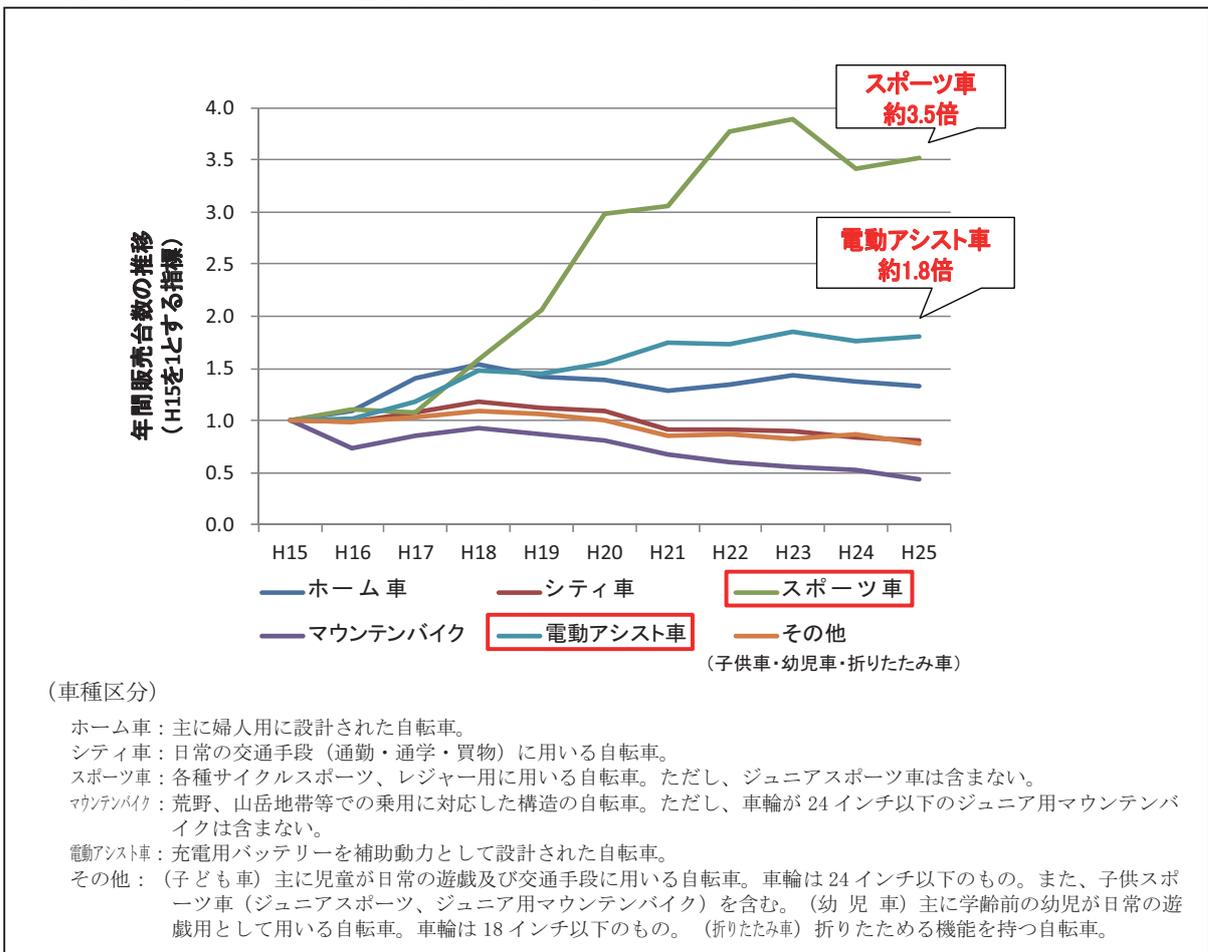


資料：自転車の活用推進に向けた有識者会議 第4回（平成30年4月）〈国土交通省〉

(2) 自転車販売台数の推移

自転車全体の販売台数そのものが減少傾向にある中で、一般的にママチャリと呼ばれる一般車の販売台数が最も多い状況です。また、ロードバイクやクロスバイクなどのスポーツ車や電動アシスト自転車は増加傾向にあります。

■国内における自転車の車種別販売台数の伸び率（年間1店あたり）



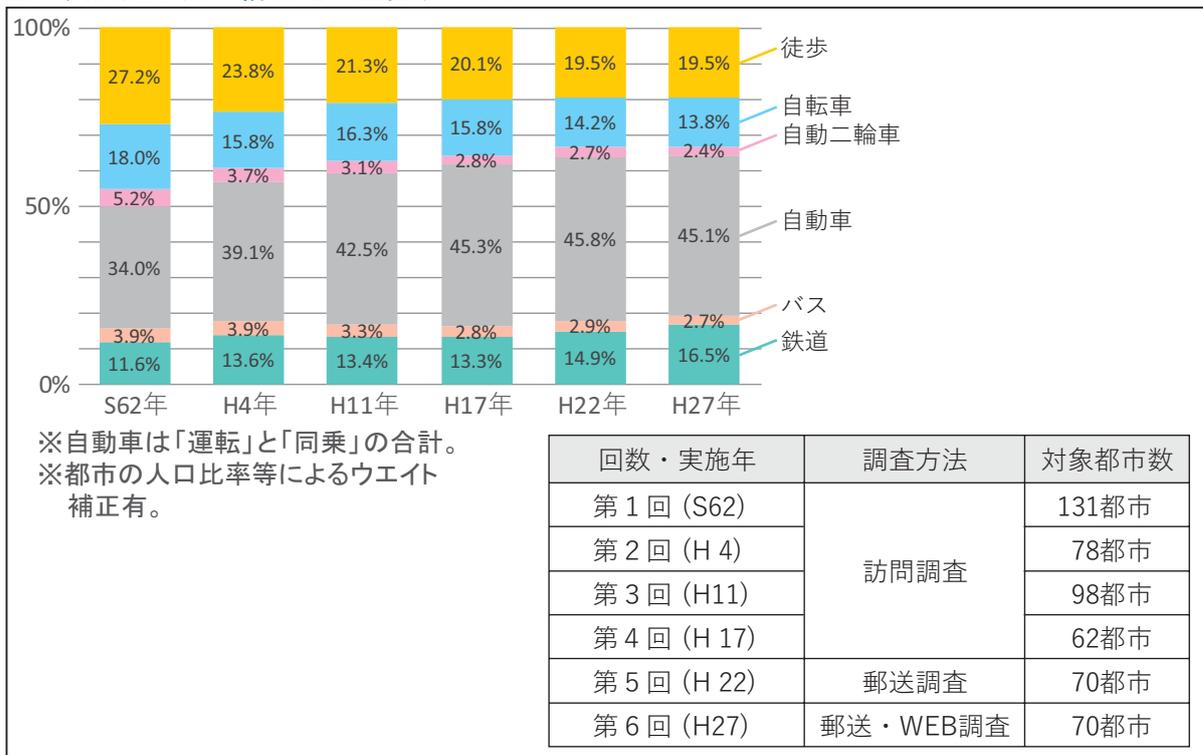
資料：「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」＜国土交通省 道路局、警察庁 交通局＞
 原典：「自転車国内販売動向調査」＜一般財団法人 自転車産業振興協会＞



(3) 代表交通手段の構成比（全国、平日）

全国の平日における代表交通手段[※]の構成比について、調査年毎の推移を見ると、自転車の割合は年々減少しています。

■代表交通手段の構成比（全国、平日）



資料：全国都市交通特性調査〈国土交通省都市局〉を基に作成

※代表交通手段：出発地から目的地までの間に複数の交通手段を利用する場合において、最も優先順位の高い交通手段のことです。優先順位は高い方から、鉄道、バス、タクシー、自動車（運転）、自動車（同乗）、バイク、自転車、徒歩の順となっています。例として、家から自転車、A駅から鉄道、B駅から徒歩で職場まで通勤した場合、鉄道が代表交通手段となります。

ペダルこぎ ほほに感じる 四季の風

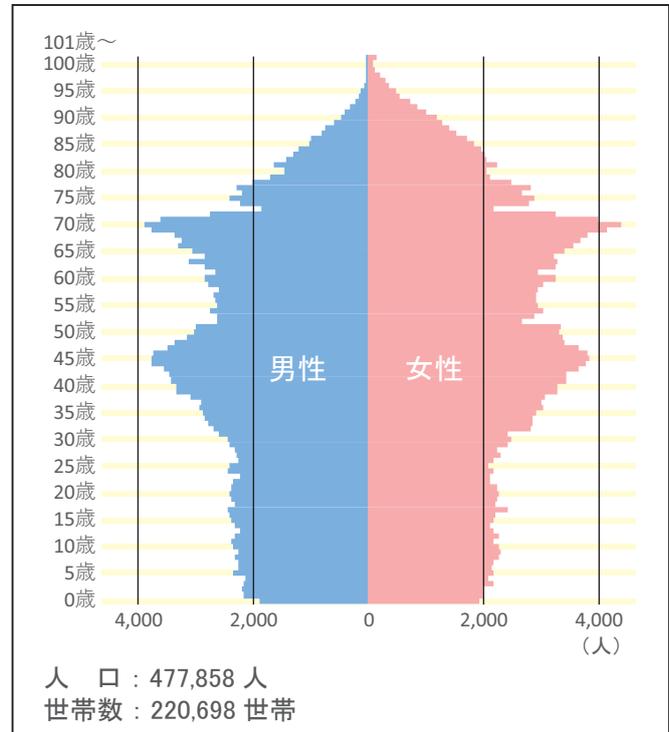
平成18年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

3 大分市の自転車利用実態

(1) 人口・世帯数

大分市の人口は約48万人、世帯数は約22万世帯となっています。20代半ば以降の世代が他の世代に比べて少ない状況です。年齢別3区分人口構成比の推移を見ると、少子高齢化が進んでいる傾向が続いています。

■大分市の人口ピラミッド（平成31年3月末）



資料：住民基本台帳〈大分市〉を基に作成

■大分市の年齢別3区分人口構成比の推移



資料：おおいた創造ビジョン2024（大分市総合計画）

じてんしゃに のってわくわく やすみのひ

平成19年度標語コンクール 小学校低学年の部 最優秀作品

**(2) 利用交通手段**

以下に大分市常住で市内外へ従業・通学する15歳以上自宅外就業者・通学者の利用交通手段を示します。大分市の自転車利用者のうち、97%は大分市内で利用しています。また、自転車は自家用車に次いで利用が多く約16%を占めるなど、重要な交通手段となっています。

■利用交通手段

※大分市常住で従業・通学する15歳以上自宅外就業者・通学者

	総数（利用交通手段）※1										
		徒歩のみ	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	自家用車	ハイヤー・タクシー	オートバイ	自転車※4	その他	不詳
大分市に常住する自宅外就業者・通学者※2	226,885	15,776	9,250	13,171	1,465	145,349	545	11,768	35,760	2,916	3,675
自市で従業・通学	206,512 91%	15,618 99%	6,538 71%	12,237 93%	1,230 84%	130,401 90%	489 90%	11,257 96%	34,669 97%	2,488 85%	2,311 63%
他市区町村で従業・通学※3	19,772	158	2,712	934	235	14,948	56	511	1,091	428	763
県内	16,556	40	2,270	741	203	13,475	36	425	788	202	121
別府市	5,296	5	1,364	483	34	3,788	7	210	377	59	28
中津市	283	1	104	10	1	171	1	8	35	13	6
臼杵市	2,073	-	200	22	9	1,815	18	29	99	22	14
豊後大野市	1,433	4	172	10	-	1,241	1	26	67	10	10
由布市	4,078	20	155	167	132	3,468	4	116	112	33	30
日出町	558	-	58	14	15	458	-	7	23	10	12
その他の市町村	2,835	10	217	35	12	2,534	5	29	75	55	21
他県	994	40	321	95	21	406	14	14	67	174	37
福岡県	449	16	177	68	5	201	3	6	31	32	13
福岡市	226	11	101	52	1	72	-	5	21	15	8
その他の市町村	223	5	76	16	4	129	3	1	10	17	5
その他の都道府県	545	24	144	27	16	205	11	8	36	142	24

※1 複数回答のため、利用交通手段9区分を足し上げたものとは必ずしも一致しない。

※2 通学地「不詳」を含む。

※3 従業地・通学地「不詳」を含む。

※4 自転車に関連する項目は20人以上の項目を含む自治体のみ表記し、それ以外は「その他」等へ合算した。

資料：平成22年国勢調査（※利用交通手段は10年毎の調査のため、計画策定時点の最新データ）

自転車は 地球にやさしい『宝物』

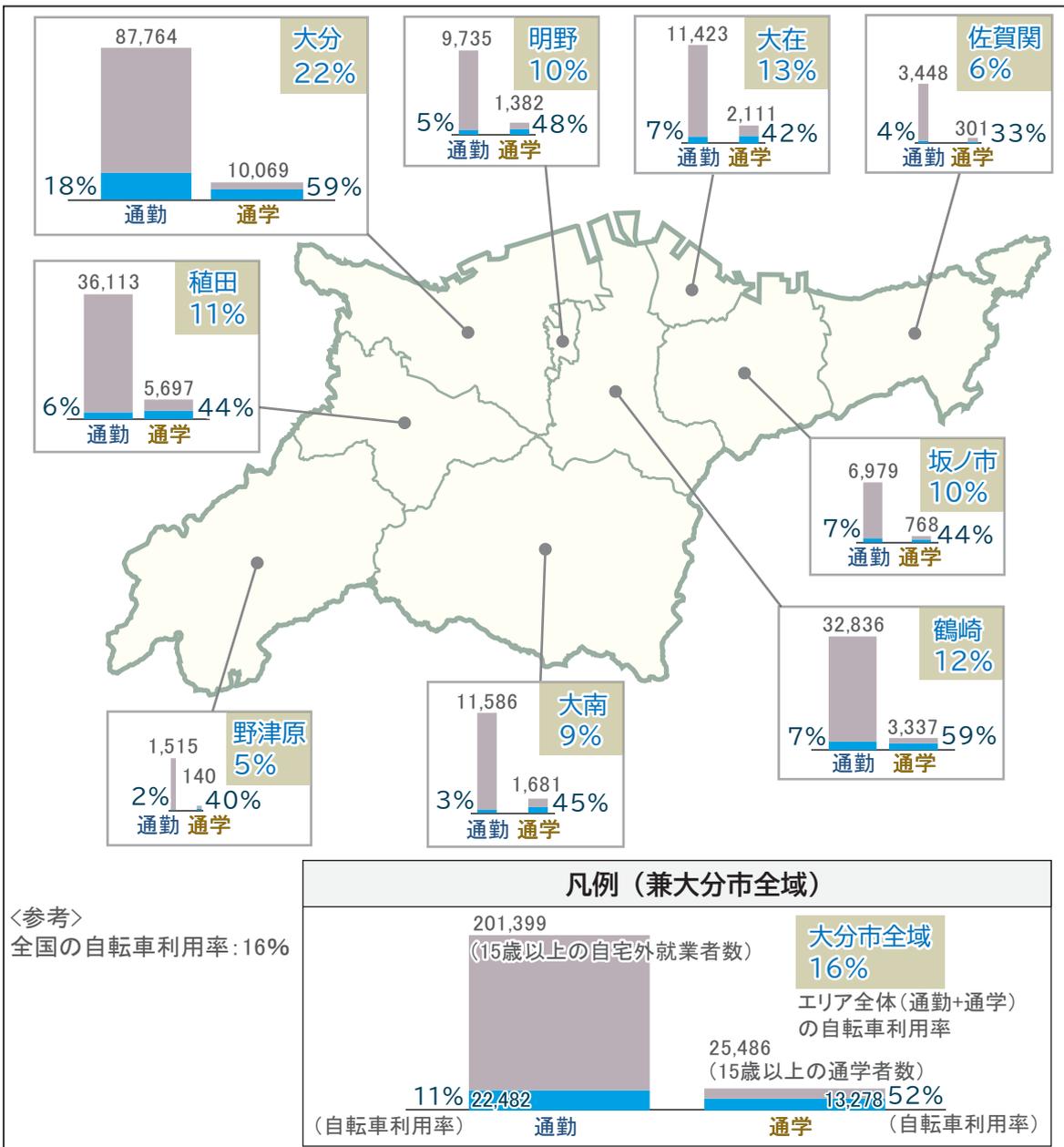
平成19年度標語コンクール 小学校高学年の部 最優秀作品

(3) 自転車利用率

大分市の自転車利用率[※]は、平成22年国勢調査によれば16%と全国平均と同じ値です。地域別に見ると、大分地区が22%と最も高く、佐賀関地区と野津原地区が5%前後と最も低い状況です。その他の地区は概ね10%前後となっています。

また、大分市の自宅外就業者の自転車利用率が11%であるのに対し、通学者の自転車利用率は52%と高い割合を示しています。

■大分市内の自転車利用率（15歳以上の自宅外就業者及び通学者）



<参考>
 全国の自転車利用率: 16%

資料：平成22年国勢調査（※利用交通手段は10年毎の調査のため、計画策定時点の最新データ）

※自転車利用率：「通勤や通学時に自転車を利用している割合」と独自に定義します。多く引用される「自転車分担率」は、出発地から目的地までの主な交通手段の分担率（代表交通手段分担率）です。「自転車分担率」では、家から鉄道駅までの自転車利用やシェアサイクル等の端末交通が率に反映されないことから、これらを反映させるため、独自に定義しました。



(4) 自転車保有台数

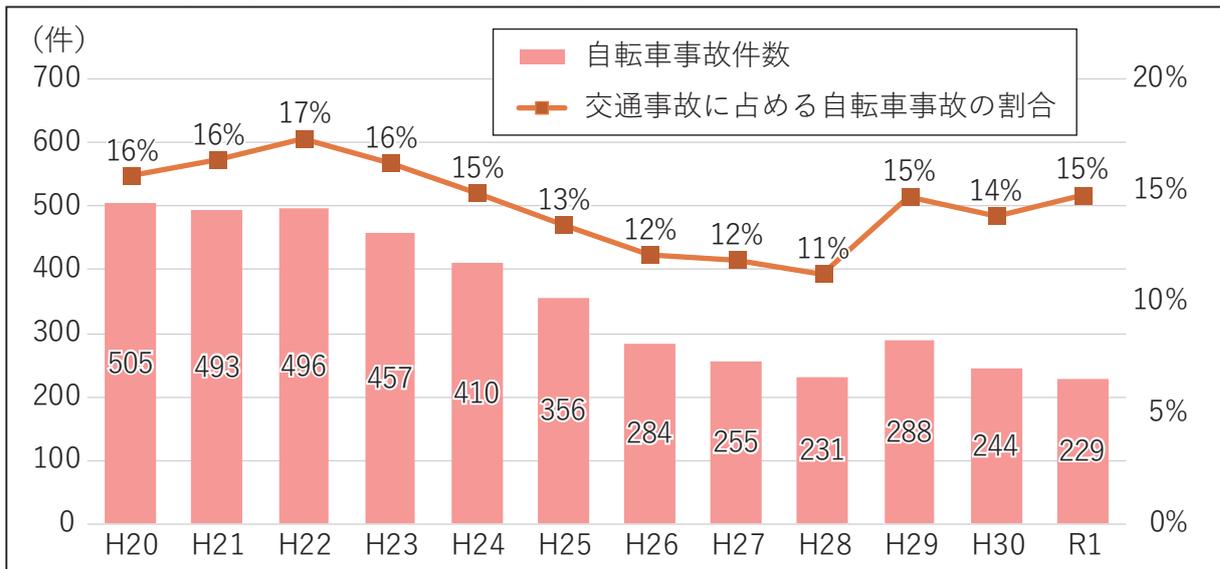
「大分市の自転車利用環境に関するアンケート（平成31年4月）」（以下、「アンケート調査」）の集計結果を基に、回答者の世代別の偏りと実際の世代別人口比を考慮して補正した結果、1世帯当たりの自転車保有台数は1,224（台/世帯）と推測されます。この値に221,469世帯（住民基本台帳※平成31年3月末現在）を乗じた結果、大分市全体では約27万1千台の自転車があると推測されます。

なお、自転車数の推計はアンケート調査に基づくことから、あくまでも目安であり、一定の誤差が生じている可能性があります。

(5) 自転車事故の現状

大分市内における自転車関連事故の件数は減少傾向にあり、近年では平成20年に比べて半減しています。

■大分市内における自転車関連事故件数の推移



資料：大分県警察 交通企画課データを基に作成

自転車で 風切って気付く まちの良さ

平成19年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品

4 アンケート調査結果

大分市民を対象に「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」を行いました。主な内容を抜粋して掲載します。

(1) 調査の概要

回収率は41%であり、大分市で実施している他のアンケート調査の平均的な回収率（概ね3割強）と比べて高いため、自転車施策への市民の関心が高いことを示している可能性があります。（ただし、回収率は設問の量や内容等、他の要素も影響します。）

■ 調査の概要

名 称：大分市の自転車利用環境に関するアンケート
方 法：郵送
期 間：平成31年3月上旬～令和元年5月末（約3ヶ月間）
対象者：大分市内に住む15歳以上の市民
発送数：1,606部
回収数：666票（回収率41%）

(2) アンケート調査結果のまとめ

- 通勤距離：半数近くが5km以内
- 買い物距離：7割強が3km以内
- 利用目的は買い物、通勤、遊びの順に多い。
- 自転車に良く乗る理由は、自由に移動でき、便利で手軽、目的地に早く着く、経済的、健康に良い等
- 自転車に良く乗る人は心身への良い影響を感じている傾向にある。
- 自転車にあまり乗らない人は、安全で便利な道路（自転車レーン等）があり、駐輪場が目的地やその近くにあれば、今より自転車に乗りたいと思える傾向にある。
- 10代は自転車に良く乗るが、20代以上は自転車にあまり乗らない。
- 大分市が積極的に自転車施策に取り組んでいることは半数近くの市民が知っているか、少し見聞きしたことがある。
- 以前に比べ、自転車利用者にスマートに乗る人が増え、駐輪場に停めやすくなり、放置自転車等が減り、自転車を楽しむ大会やイベントが増えたと感じられている。一方で自転車走行空間に関連する安全性、公共交通機関との連携、自転車ルール・マナー等については改善があまり感じられていない傾向にある。
- 今後も大分市が自転車関連施策に積極的に取り組むべきと思う割合は、「そう思う」と「少しそう思う」の合計で73%となっている。
- 今後の取組として、「自転車ルール・マナー啓発や交通安全教育等の推進」、「自転車専用の道路を増やす」、「災害時に自転車を活用できる取組や情報提供の推進」、「小規模な駐輪場を分散して増やす」の順番に望まれている。
- 自由回答として、自転車ルール・マナーの改善に関する意見が最も多く、次いで自転車走行空間の整備に関する意見、自転車利用環境の変化や現状に関する意見の順となっており、その他にも多くの意見が寄せられた。

世代こえ 健康づくりに 踏むペダル

平成 19 年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

自転車で 走る姿が 似合う町

平成 20 年度標語コンクール おおいた交通安全フェア 30 回記念特別賞

大分は 自転車ひとこぎ 山や海

平成 20 年度標語コンクール 小学校低学年の部 最優秀作品

自転車で 乗ってふせごう 温だん化

平成 20 年度標語コンクール 小学校高学年の部 最優秀作品

自転車で エコにくらそう 毎日を

平成 20 年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品

駆け抜ける 僕と自転車 風になる

平成 20 年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品



第3章 「大分市自転車利用基本計画」の検証





1 「大分市自転車利用基本計画」と国の計画の関連性

「大分市自転車利用基本計画」と国の自転車活用推進計画の関連性について、下図に示します。大分市が特に積極的に取り組んだ施策については赤枠で示しています。

■ 「大分市自転車利用基本計画」の検証項目と国の計画の関連性

大分市自転車利用基本計画	目標Ⅰ 自転車で元気、 きれいなまち おおいた		目標Ⅱ 自転車に乗りたくなるまち おおいた				目標Ⅲ 自転車に快適に乗れるまち おおいた						目標Ⅳ 自転車に乗る 人が楽しく、 やさしいまち おおいた			
	きれいな 環境、健康 づくり		使いやすい しくみ づくり		乗りたくなる きっかけづくり		安全・快適 ネットワーク づくり		安心・便利に 停められる空間 づくり				互いに 思いやる心 づくり	楽しめる 機会 づくり		
	1 ヘルシー& エコ自転車事業 の推進	2 自転車通勤 (ジニツツ)の 推進	3 自転車と他の 交通機関との 連携の推進	4 レンタサイクル事業の 推進	5 自転車マップの作成、 活用 の推進	6 わかりやすい自転車案内 サイン整備の推進	7 地域振興の 推進	8 自転車を活かした観光・地 域振興の推進	9 自転車・歩行者が共存する安 全・安心な歩道整備の推進	10 自転車レーンの設置の 推進	11 気軽に停められる駐輪場整 備の推進	12 大分駅周辺における駐輪場 整備の推進	13 自転車の返還の推進	14 自転車の盗難防止と放置自 転車の有効活用	15 ルール・マナーについて考 え、気づきかけづくり の推進	16 自転車関連イベントの 推進
自転車活用推進計画 < 国 >																
【目標1】 自転車交通の役割 拡大による良好な 都市環境の 形成	1				△	△		○	×	○						
	2										△	△				
	3			△	○			△	△							
	4									○	○					
	5				△						△	△	△			
	6								△		△					
【目標2】 サイクル スポーツ の振興等 による活 力ある健 康長寿社 会の実現	7															
	8							△								○
	9	○	△													
	10		○													
【目標3】 サイクル ツーリズ ムの推進 による観 光立国の 実現	11															○
	12			△		△	△	△	△							△
【目標4】 自転車事 故のない 安全で安 心な社会 の実現	13														△	
	14														○	
	15														○	
	16														○	
	17					△	△		○	×	○					
	18															

○：関連性が高い施策 △：関連性が多少ある ×：方針変更 赤枠：大分市が特に積極的に取り組んだ施策



2 取組毎の検証

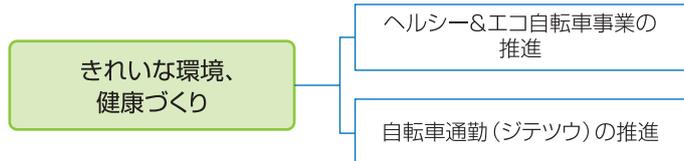
大分市では、平成18年3月に策定した「大分市自転車利用基本計画」に基づき、これまで自転車に関する諸施策を進めてきました。本計画の策定に当たり、「大分市自転車利用基本計画」に基づく取組の成果や課題等を本計画に引き継いで反映・統合させる必要があります。

(1) きれいな環境、健康づくり

①取組の概要

目標「I 自転車で元気、きれいなまち おおいた」の環境づくり「きれいな環境、健康づくり」について検証します。

■「きれいな環境、健康づくり」の概要



②取組状況

1) ヘルシー & エコ自転車モニター事業の推進

大分市では、平成17年度に、一定期間自転車を積極的に利用してもらい、その前後に健康診断、体力測定を行うことで、自転車利用が健康面にどれだけ効果があるのかを検証するとともに、環境問題に対する意識の向上を促進するため、「ヘルシー&エコ」自転車モニター事業を実施しました。その結果、自転車の様々な健康への効用が実証されました。また、自転車関連イベントや自転車教室等の機会を捉え、自転車利用やその効用を呼びかけてきました。

■「ヘルシー&エコ」自転車モニター事業におけるモニターの健康への効果



2) 自転車通勤(ジテツウ)の推進

自転車通勤、自転車利用を市民へ広く呼びかけるに当たり、まずは市の職員が率先して自転車で通勤してもらい、その効用を体感してもらうため、大分市役所の職場内広報紙「ジテツウ」を平成17年度から継続的に発行しています。自転車ルール・マナーや通行方法のほか、自転車に関する様々な情報を提供しています。

市職員の自転車通勤者(通勤距離2km以上)は、平成17年当時と平成31年を比較すると1.64倍に増えています。

■職場内広報紙「ジテツウ」





③事業効果の検証

アンケート調査によれば、自転車にスマートに乗る人が増えたと感じられている傾向にあります。

■アンケートの評価（自転車利用状況関連）

●自転車にスマートに乗る人^{※1}が増えた

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	73		3.23
少しそう思う	4点	162		
変わらない	3点	90		
あまりそう思わない	2点	126		
全くそう思わない	1点	36		
分からない	-	108		

<有効回答数：595票>

※平均点は「分からない」を除く

※1 ヘルメット着用、質やデザインの良い自転車、自転車に合うファッションやライフスタイル 等

④まとめ

「ヘルシー&エコ自転車事業」については、モニター事業の実施により自転車の様々な効用が確認できました。今後も自転車の様々な効用の周知を継続的に進める必要があります。

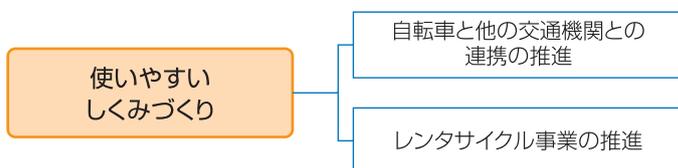
「自転車通勤（ジテツウ）の推進」については、市の職員への広報として積極的に実施してきました。今後は、企業・事業所における自転車通勤の促進の手法について検討が必要です。

（2）使いやすいしくみづくり

①取組の概要

目標「Ⅱ 自転車に乗りたくなるまち おおいた」の環境づくり「使いやすい仕組みづくり」について検証します。

■「使いやすいしくみづくり」の概要



自転車で ふれ合うあいさつ 気をつけて！

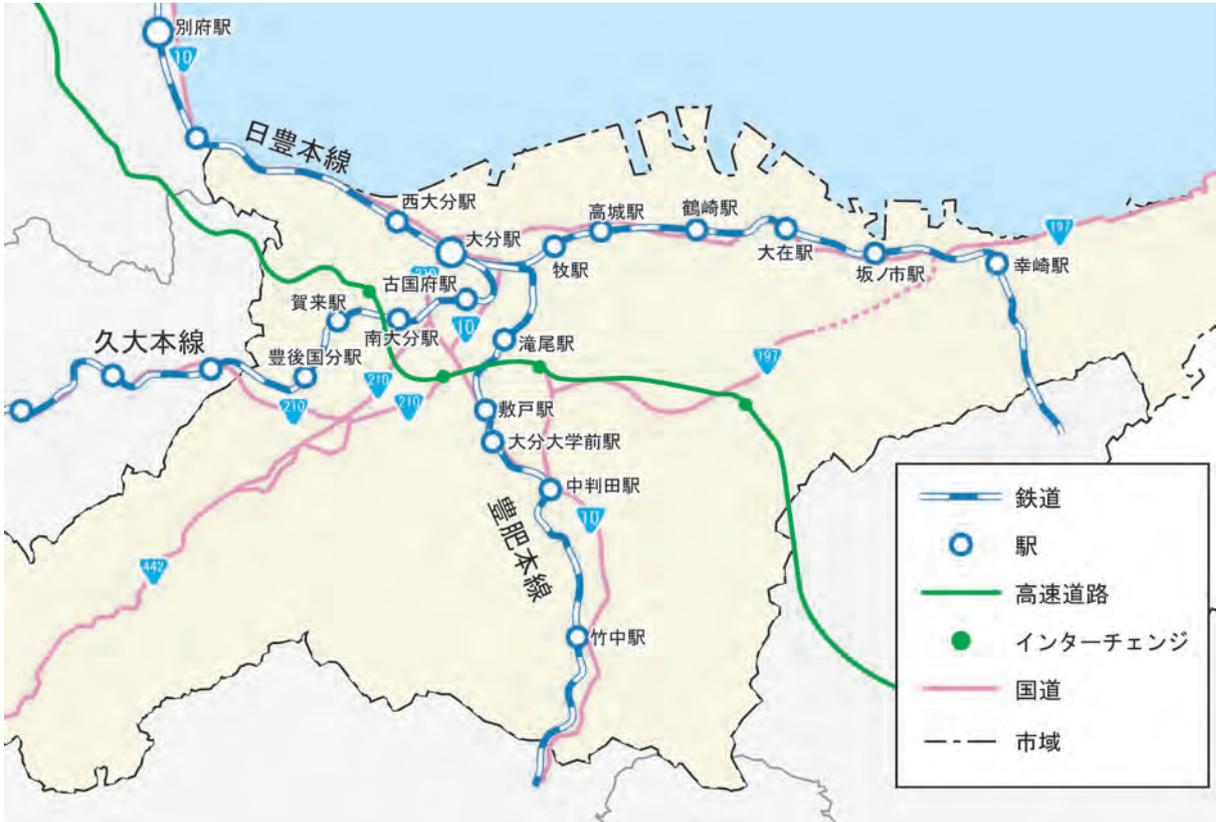
平成20年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品



②自転車と他の交通機関との連携の推進

鉄道と自転車の連携を図るため、大分駅以外の鉄道駅周辺部においても駐輪場整備を行ってきました。かつては駅舎の周辺などに放置自転車等が見られましたが、現在では解消されています。

■大分市内の駅



■鉄道駅（大分駅以外）における駐輪場及び駐輪スペース一覧表

駅名	駐輪場名	設置者	管理者	収容可能台数(台)		ラックの有無	ラック付駐輪場整備年度
				自転車	原付(50cc以下)		
①西大分	-	-	JR	124	26	無	-
②牧	牧駅駐輪場	大分市	大分市	300	20	有	H19年度
③高城	高城駅駐輪場	大分市	大分市	689	-	無	-
	高城駅南駐輪場	大分市	大分市	163	24	有	H22年度
④鶴崎	鶴崎駅駐輪場	大分市	大分市	696	48	有	H17年度
⑤大在	大在駅駐輪場	大分市	大分市	624	-	無	-
	大在駅南駐輪場	大分市	大分市	100	-	無	-
⑥坂ノ市	坂ノ市駅駐輪場	大分市	大分市	406	20	有	H17年度
⑦幸崎	-	-	JR	129	17	無	-
⑧古国府	-	JR	JR	99	3	無	-
⑨南大分	-	JR	JR	110	10	無	-
⑩賀来	賀来駅駐輪場	大分市	大分市	120	15	有	H21年度
⑪豊後国分	豊後国分駅駐輪場	大分市	大分市	79	18	無	-
⑫滝尾	-	JR	JR	90	4	無	-
⑬敷戸	敷戸駅駐輪場	大分市	大分市	80	-	無	-
	(※敷戸駅西側)	JR	JR	307	26	無	-
⑭大分大学前	大分大学駅前駐輪場	大分市	大分市	150	-	無	-
⑮中判田	-	JR	JR	294	43	無	-
⑯竹中	-	-	JR	20	8	無	-



③レンタサイクル事業の取組状況について

1) レンタサイクル事業

自動車から自転車への転換、交通機関との連携、放置自転車対策、観光振興への寄与等を目的として、レンタサイクル事業を実施しています。平成18年11月に社会実験として事業を開始し、平成24年11月から「大分市レンタサイクル条例」に基づく本格実施に移行しました。

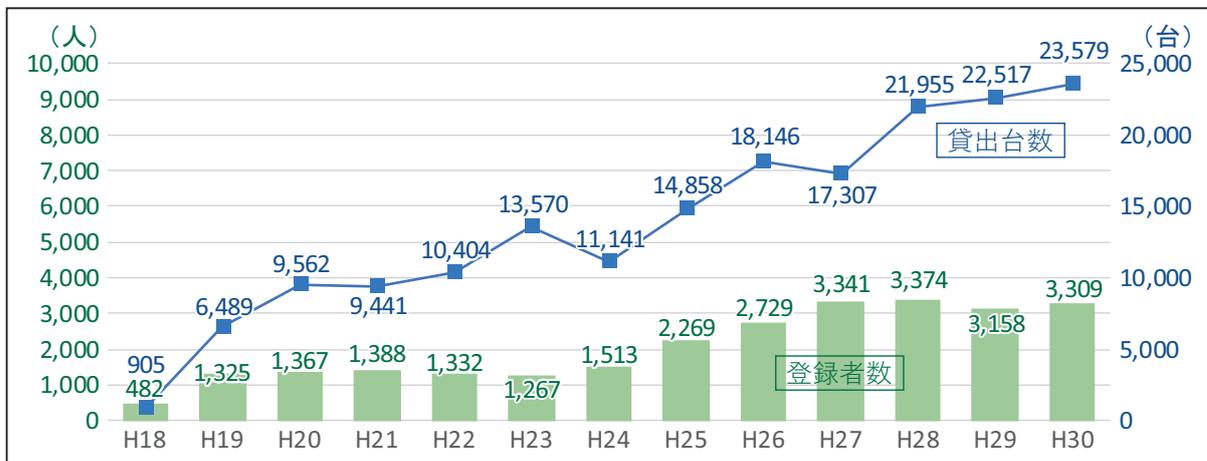
大分駅高架下東駐輪場内にレンタサイクルのサイクルポートを設置するとともに常駐の係員を配置し、自転車100台で運用しています。

■大分市レンタサイクルについて

場 所	大分駅高架下東駐輪場内(住所:要町2605-2)				
利用時間	7:30~19:30				
対 象	中学生以上(中学生は保護者の同意が必要)				
利用料金	一時 1日 (1回あたり)	普通自転車	210円(最長4日まで)		
		電動アシスト付	400円(1日利用のみ)		
	定期 1ヶ月	一般	2,100円		
		学生(中高生)	1,680円		
		3ヶ月	一般	5,240円	
			学生(中高生)	4,200円	



■大分市レンタサイクル利用状況の推移



ペダルこぐ えがお あふれる おおいた市

平成21年度標語コンクール 小学校低学年の部 最優秀作品



2) シェアサイクル事業

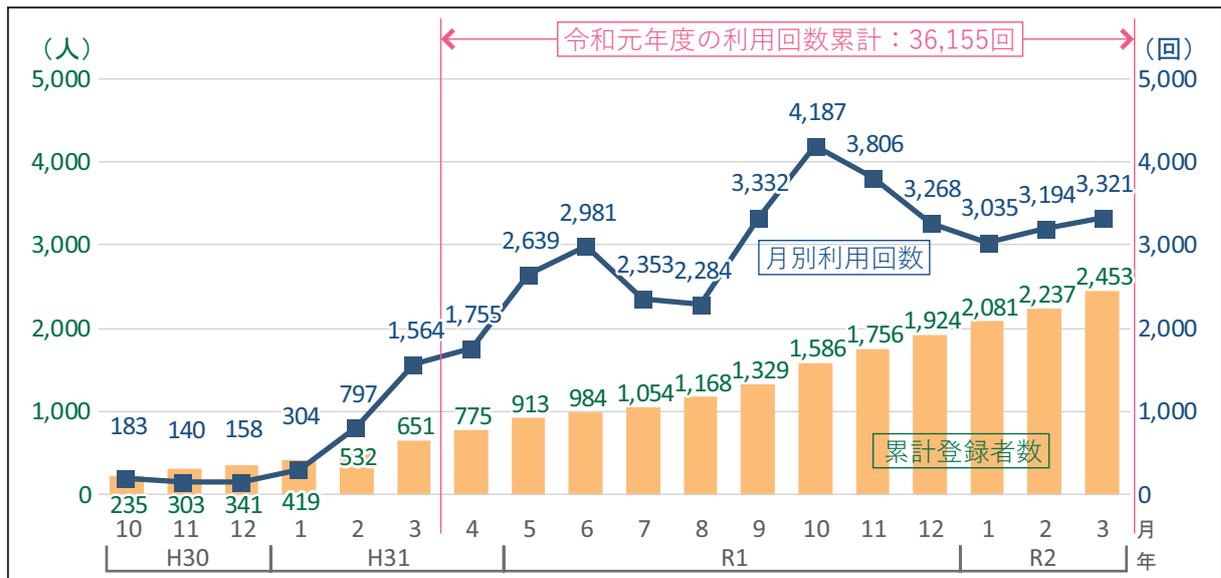
交通の利便性を高めるとともに、環境負荷の低減や健康増進、魅力ある観光振興にも資することを目的として、シェアサイクルの実証実験を平成30年10月から開始しました。

運営事業者と共に、サービス展開エリアの設定や再配置の課題解決等に取り組むことで、持続可能な事業のあり方について検証していきます。

■ サイクルポート、専用自転車附属の機器



■ 大分市シェアサイクル利用状況の推移



こぐすがた ルール、マナー守って かわいい

平成21年度標語コンクール 小学校高学年の部 最優秀作品



④事業効果の検証

アンケート調査によれば、レンタサイクル事業に関する項目については、市民にとって利便性はあまり変わらないと感じられている傾向にあります。また、自転車から電車やバスへの乗り換えのしやすさもあまり変わらないと感じられている傾向にあります。

レンタサイクルの登録者数は約3,300人で、レンタサイクル利用者のアンケートによれば大分市民は概ねその40%の1,320人であり、大分市民全体の0.3%以下が利用していると推測されることや、シェアサイクルもスタートして間もないことなどから、市民全体を対象とした抽出調査のアンケートでは結果にあまり反映されない可能性があります。

一方で、シェアサイクルの利用が着実に拡大していることから、さらに周知が進めば利用はさらに拡大する可能性があります。

■アンケートの評価（レンタサイクル・交通結節点の利便性等）

●レンタサイクル等が便利になった

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	39		2.99
少しそう思う	4点	94		
変わらない	3点	47		
あまりそう思わない	2点	90		
全くそう思わない	1点	42		
分からない	-	236		

<有効回答数：548票>

※平均点は「分からない」を除く

●自転車から電車やバスへの乗り換えがしやすくなった

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	23		2.60
少しそう思う	4点	40		
変わらない	3点	107		
あまりそう思わない	2点	105		
全くそう思わない	1点	57		
分からない	-	256		

<有効回答数：588票>

※平均点は「分からない」を除く

⑤まとめ

「自転車と他の交通機関との連携の推進」については、各鉄道駅における駐輪場整備を行ってきました。今後はバス停留所付近における駐輪スペースの確保についても検討が必要です。

「レンタサイクル事業の推進」については、レンタサイクル事業を行い一定の利用が見られる一方で、シェアサイクルについても実証実験を実施しています。両事業の費用対効果等を比較・検証しながら、今後の方向性を検討する必要があります。

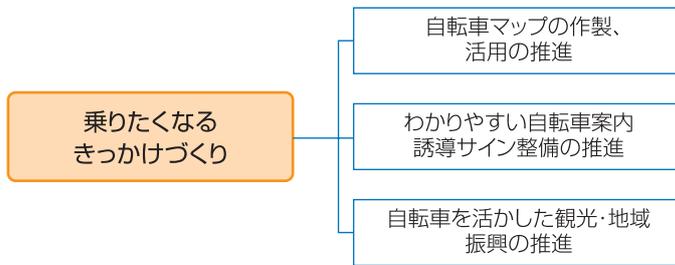


(3) 乗りたくなるきっかけづくり

①取組の概要

目標「Ⅱ 自転車に乗りたくなるまち おおいた」の環境づくり「乗りたくなるきっかけづくり」について検証します。

■「乗りたくなるきっかけづくり」の概要



②取組状況

1) 自転車マップの作製、活用の推進

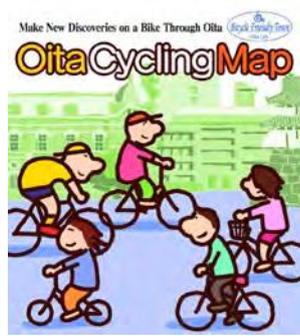
平成17年度に「おおいた自転車マップ」を作製して以降、大分市役所本庁舎や各支所等にて配布し、市民や大分市を訪れた方に利用していただいています。令和元年度には、「ラグビーワールドカップ2019日本大会」に合わせて英語版のマップを作製しました。

また、電子版自転車マップとして、PDF形式のデータを大分市のホームページで公開しています。利用者に好評を博しており、これまで継続して改定と増刷を行っています。

■「おおいた自転車マップ」の表紙

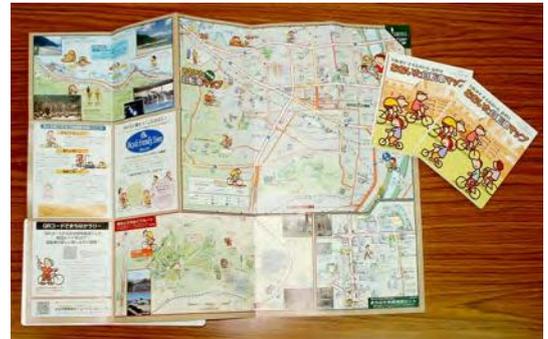


(日本語版)



(英語版)

■おおいた自転車マップ（紙版）



温暖化 とめて自転車 進めよう

平成21年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品



2) わかりやすい自転車案内誘導サイン整備の推進

西大分港の自転車サイン案を検討するワークショップを行い、シンボルマーク入りの看板のデザインを検討し、西大分のかんたん地区に設置しました。また、さかのせきサイクリングロードのルート上に案内サインを設置しました。

■みなとワークショップ（自転車を活かしたみなとまちづくり）



■西大分かんたん地区自転車サイン付街路灯



■さかのせきサイクリングロード案内サイン



「おはよう」と 君の笑顔が 僕を抜く

平成 21 年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品



3) 自転車を活かした観光・地域振興の推進

佐賀関において昭和38年まで運行されていた軽便鉄道の廃線敷の一部区間整備工事の完成を記念するとともに、自転車を活かした地域振興を推進するため、平成18年度から平成25年度まで「さかのせき地域発見サイクリング大会」を行いました。

開催に当たっては、JR九州大分支社の協力を得て、自転車を輪行袋に入れずにそのまま列車へ持ち込んで移動できる「サイクルトレイン」の運行を実施しました。

■さかのせき地域発見サイクリング大会



③事業効果の検証

アンケート調査によれば、自転車で乗りたくなった、乗る機会が増えたとあまり感じられていない傾向にあります。

■アンケートの評価（自転車利用への意識）

●自転車で乗りたくなった、乗る機会が増えた

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	27	5%	2.51
少しそう思う	4点	56	10%	
変わらない	3点	170	29%	
あまりそう思わない	2点	107	18%	
全くそう思わない	1点	118	20%	
分からない	-	106	18%	

<有効回答数：584票>

※平均点は「分からない」を除く



④まとめ

「自転車マップの作製、活用の推進」については、継続的に取り組んできましたが、今後はマップの見直しも含め手法の検討が必要です。

「わかりやすい自転車案内誘導サイン整備の推進」については、より効果的な手法を検討する必要があります。また、歩道のカラー化についても国の方針と異なることから、市としても今後は方針の変更が必要です。

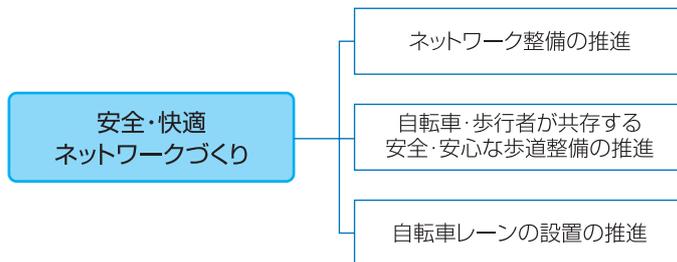
「自転車を活かした観光・地域振興の推進」については、今後も自転車関連のイベント開催を推進するとともに、自転車を活用した観光振興や地域の活性化に関する取組についてさらなる検討が必要です。

(4) 安全・快適ネットワークづくり

①取組の概要

目標「Ⅲ 自転車に快適に乗れるまち おおいた」の環境づくり「安全・快適ネットワークづくり」について検証します。

■「安全・快適ネットワークづくり」の概要



②ネットワーク路線の事業進捗及び進捗管理

1) 大分市自転車走行空間ネットワーク整備推進協議会

大分市内における自転車走行空間ネットワーク整備の推進を図るとともに、自転車利用の促進やルール周知、マナーアップの啓発等を検討することで、歩行者、自転車、自動車がともに安心・安全・快適に通行できる環境づくりをめざすことを目的として、平成23年度から、交通事業者や道路管理者、警察、学校関係者等で構成される「大分市自転車走行空間ネットワーク整備推進協議会」を設置しています。

本協議会では、「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の事業の予定、進捗状況、結果について報告と検証を行っています。

軽やかな 銀輪似合う 豊の街

平成21年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品



2) 自転車走行空間整備

平成21年度～23年度に、国の「自転車通行環境に関するモデル地区事業」により、市道都町東春日線と市道中島東西6号線に自転車レーンを整備しました。

最近では、「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」に基づいてネットワーク整備の優先度の高い路線等へ自転車誘導サインの整備を進めています。整備に当たっては、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に「暫定形態」として示された自転車走行空間の形態を「自転車誘導サイン」と呼ぶこととし、「大分市自転車走行空間ネットワーク整備推進協議会」においてそのデザインを決定しました。

整備目標については、ステップ1(平成25～27年度)の目標達成後、現在はステップ2(平成28～令和2年度)の目標達成に向けて取り組んでいます。特に優先すべき整備路線を決定し、本格的に実施する期間として、自転車利用者が多い、中心市街地や学校周辺において整備を進めています。ステップ2の進捗は、令和元年度終了時点で目標の約82%となっています。

■自転車ネットワークの整備目標と実績値

項目	目標値	実績値	割合 (実績値 / 目標値)	備考
ステップ1	約5 km	5.7 km	114 %	平成25～27年度
ステップ2	20 km	16.4 km	82 %	平成28～令和2年度 ※実績値は令和元年度終了時点
整備実績 (累計)	—	22.1 km	—	

■自転車レーン（市道都町東春日線、市道中島東西6号線）



■自転車誘導サイン整備状況写真



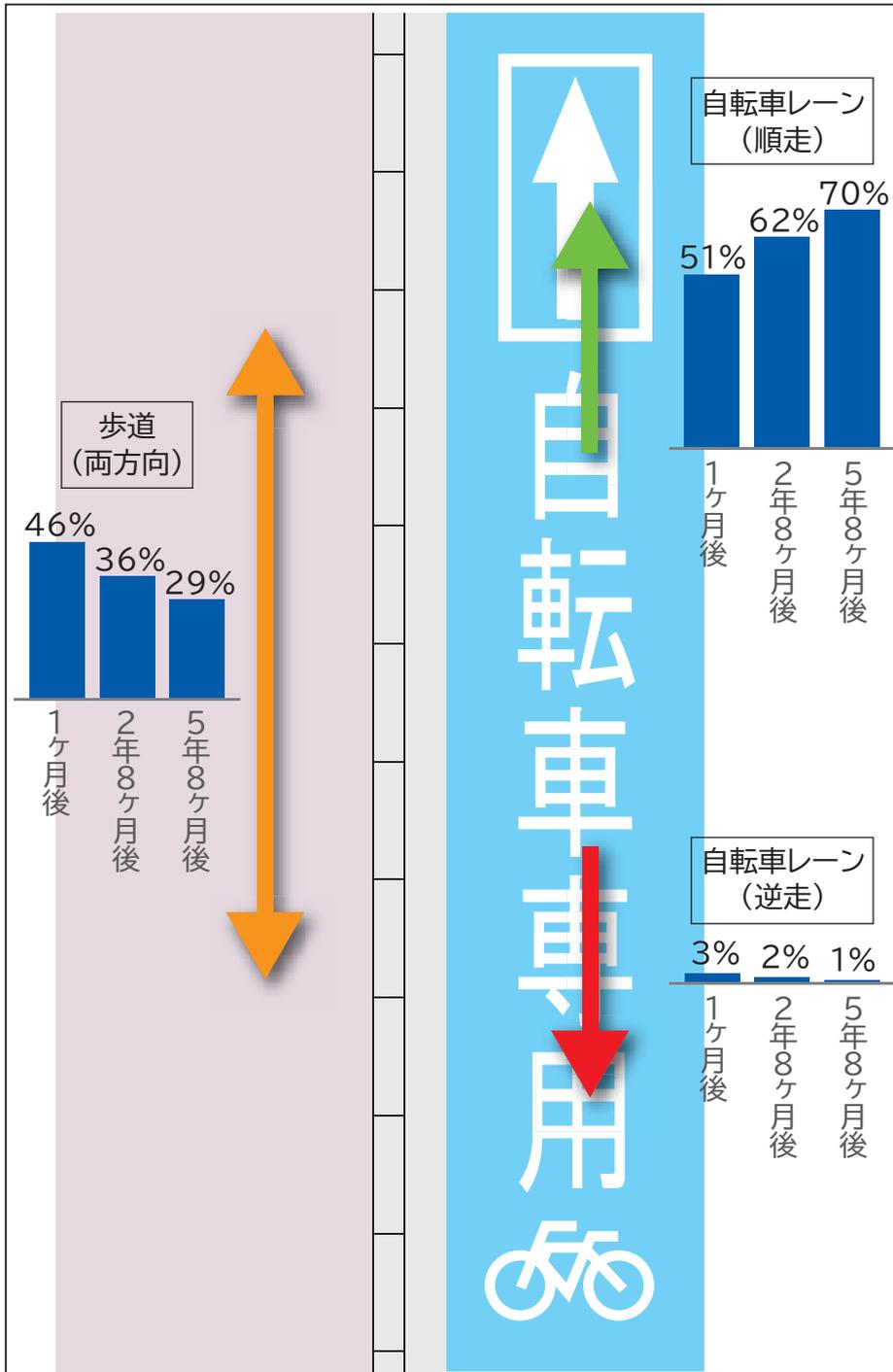


3) 自転車レーンの整備効果について

自転車レーン供用後の自転車通行状況を見ると、年々正しい走行方法をする割合が増加している傾向にあります。

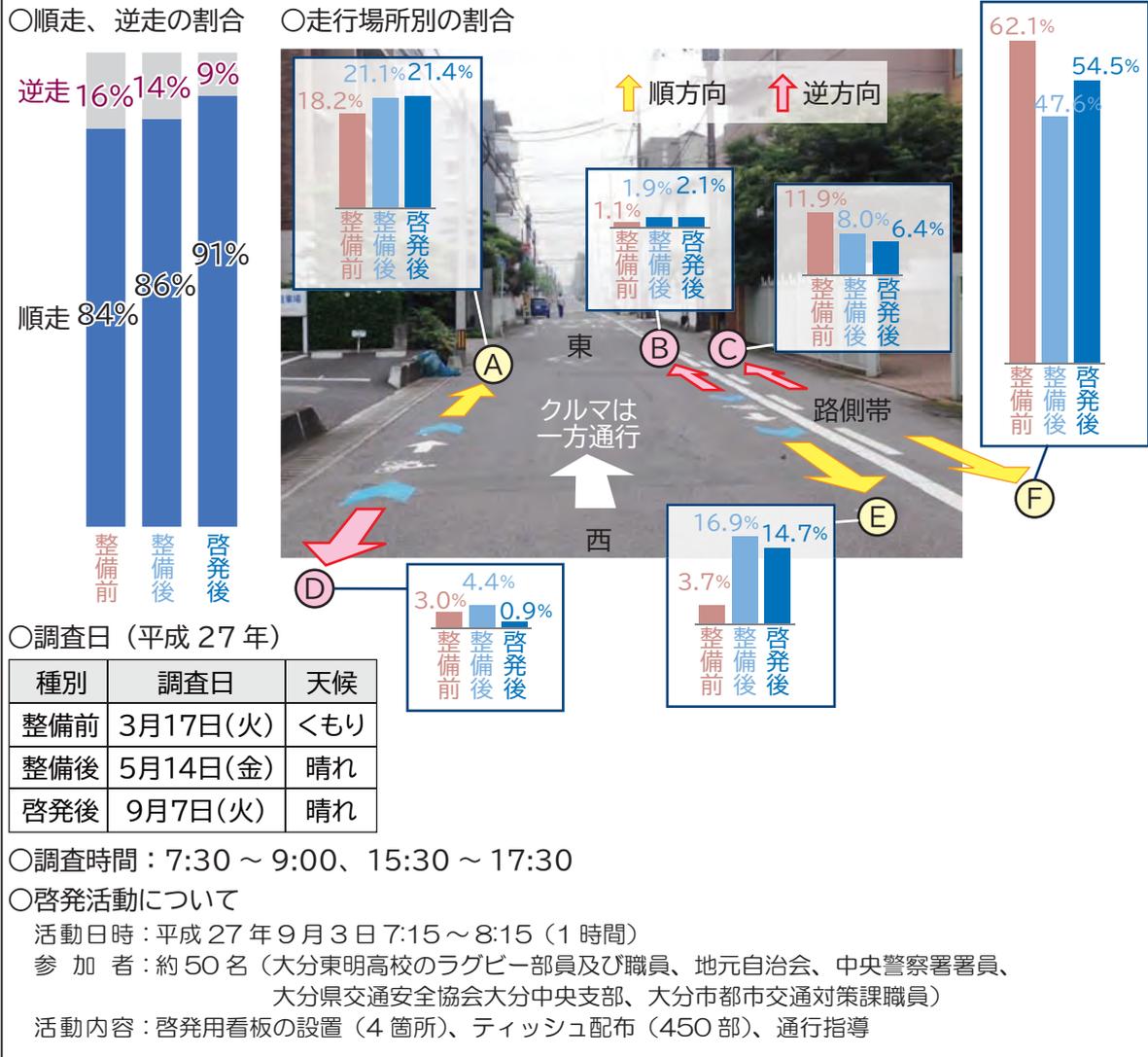
また、市道中島東西2号線における自転車誘導サイン整備前後の通行状況や市民意向を調査したところ、整備前、整備後、啓発後と比較すると、逆走の割合が減って順走の割合が高くなっており、自転車誘導サインの整備効果が現れています。

■市道都町東春日線自転車レーン供用後の自転車通行状況





■市道中島東西2号線自転車誘導サイン供用前後の自転車通行状況



じてんしゃで どんどんこいで どこまでも

平成22年度標語コンクール 小学校低学年の部 最優秀作品



③自転車走行環境の改善効果の検証

アンケート調査によれば、自転車ネットワークに関する項目については、市民にとって改善の効果があまり感じられていない傾向にあります。

■アンケートの評価（自転車ネットワーク関連）

●自転車ですぐに走りやすくなった

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	14	3%	2.43
少しそう思う	4点	65	12%	
変わらない	3点	101	19%	
あまりそう思わない	2点	148	27%	
全くそう思わない	1点	91	17%	
分からない	-	124	23%	

<有効回答数：543票>

※平均点は「分からない」を除く

●自転車と自動車との間の危険が減少した

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	14	3%	2.22
少しそう思う	4点	45	8%	
変わらない	3点	99	18%	
あまりそう思わない	2点	157	29%	
全くそう思わない	1点	133	24%	
分からない	-	100	18%	

<有効回答数：548票>

※平均点は「分からない」を除く

●自転車と歩行者との間の危険が減少した

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	11	2%	2.27
少しそう思う	4点	44	8%	
変わらない	3点	118	22%	
あまりそう思わない	2点	153	28%	
全くそう思わない	1点	119	22%	
分からない	-	103	19%	

<有効回答数：548票>

※平均点は「分からない」を除く

自転車は わたしの大事な パートナー

平成22年度標語コンクール 小学校高学年の部 最優秀作品



④まとめ

「ネットワーク整備の推進」については、これまで積極的に取り組んできました。今後も継続的に取り組む必要があります。

「自転車・歩行者が共存する安全・安心な歩道整備の推進」については、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（平成28年7月改定）」や法令等により自転車の車道通行が原則であることを前提とした方針が示されたことを踏まえ、新たな整備に関しては方針転換が必要です。

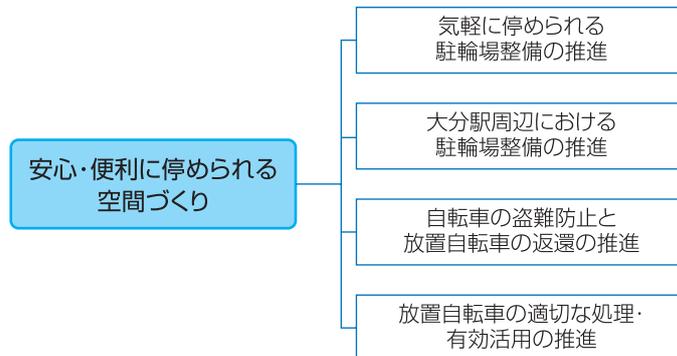
「自転車レーン設置の推進」については、市道都町東春日線等においてその高い整備効果を確認しました。しかしながら、本格的に自転車ネットワークとして自転車レーンの整備を拡大するには多大な時間と費用がかかることから、当面は自転車ネットワークの拡大に当たり自転車誘導サインを活用しながらも、機を見て自転車レーンの設置を推進する必要があります。

（5）安心・便利に停められる空間づくり

①取組の概要

目標「Ⅲ 自転車に快適に乗れるまち おおいた」の環境づくり「安心・便利に停められる空間づくり」について検証します。

■「安心・便利の停められる空間づくり」の概要



②中心市街地における自転車等駐車場整備

平成18年度から平成30年度までの一般駐輪場収容台数の推移に示すように、仮駐輪場を活用しながら、駐輪場の収容台数を拡大させてきました。

中心市街地においては、「大分市自転車等駐車場整備計画」に基づき、中央町、府内町、大分駅周辺のエリアごとに整備目標を定めて整備を進め、駐輪台数も大きく増えています。

中央町では目標整備台数を概ね達成していますが、府内町ではより細かい駐輪需要に対応するため小規模な駐輪場の分散配置が、大分駅周辺では今後も増大することが見込まれる駐輪需要に対してさらなる台数確保が必要となっています。



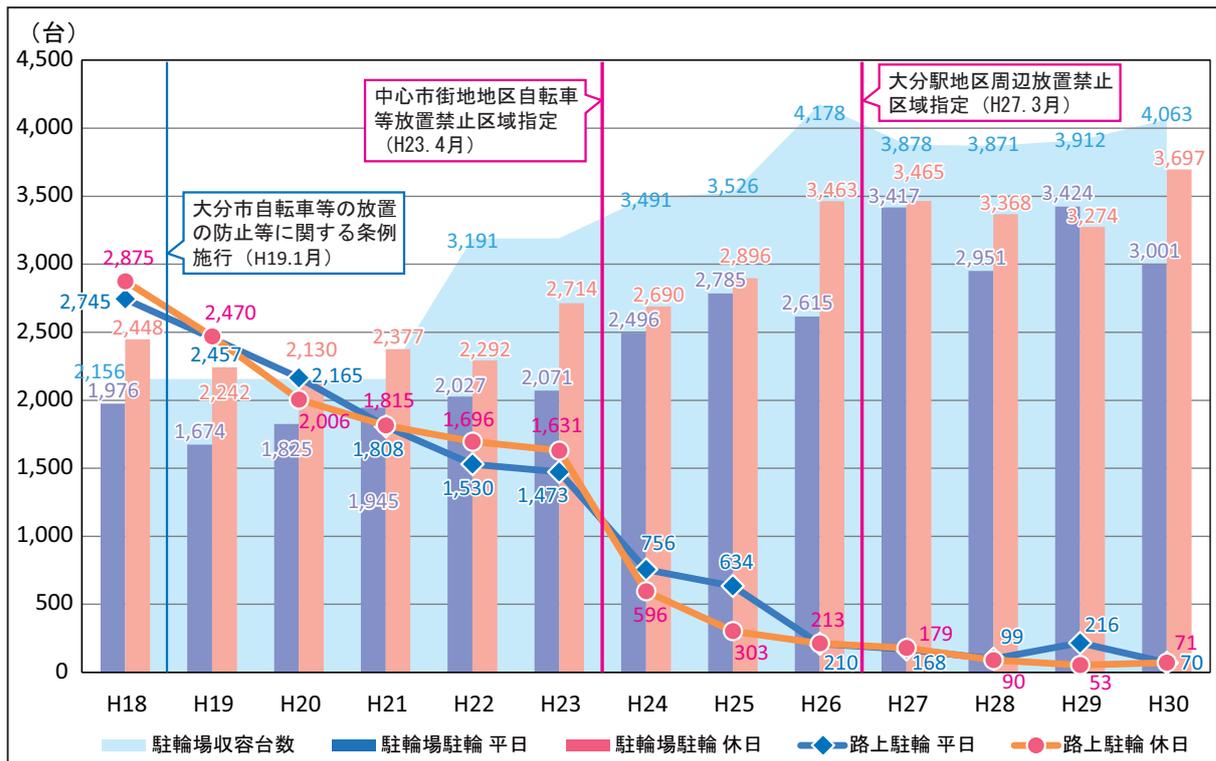
③ 中心市街地における自転車収容台数及び放置自転車等の推移

平成19年に「大分市自転車等の放置の防止等に関する条例」を制定し、自転車等放置禁止区域の指定を行うとともに、平成24年には「大分市自転車駐輪場条例」を制定し、駐輪場内に長期間駐車された自転車等の撤去、保管等を行ってきました。併せて、自転車等放置禁止区域の誘導整理や駐輪場内の警備等による適正管理を実施しています。これにより放置自転車等や撤去台数が激減しました。

特に、自転車等放置禁止区域内における放置自転車等の撤去台数は、平成30年度には237台となり、中心市街地の放置自転車等はほぼ解消されたという状況になっています。一方、駐輪場内における長期駐輪の自転車の撤去台数が多いことから、駐輪場の適正利用に向けた有料化等の検討が必要です。

また、「大分市自転車等の放置の防止等に関する条例」に基づく駐輪場の附置義務により民間施設における駐輪場の整備も進んできています。

■ 中心市街地における駐輪状況の推移



■ 放置自転車等の撤去台数の推移 (平成21年度～平成30年度)

年度		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
撤去台数	放置禁止区域内	-	-	1,095	931	943	677	608	405	289	237
	放置禁止区域外	387	399	314	337	447	308	226	291	158	118
	駐輪場内(※)	3,643	3,077	2,382	2,271	2,251	1,960	1,952	1,996	1,717	1,654
	計	4,030	3,476	3,791	3,524	3,641	2,945	2,786	2,692	2,164	2,009

※長期間にわたり駐輪場内に駐車され、その適正利用に支障が及び自転車等を撤去したもの



■駐輪場附置義務による整備台数の累計（平成19年度～平成30年度）（単位：台）

整備箇所	整備台数	備考	
		うち義務台数	
中心部	2,071	1,896	中央町、府内町、金池町の一部、大分駅周辺
中心部以外のエリア	3,154	2,511	
合計	5,225	4,407	

④自転車駐輪環境の改善効果の検証

アンケート調査によれば、駐輪環境に関する項目については、市民にとって改善の効果がある程度感じられている傾向にあります。

■アンケートの評価（自転車駐輪環境関連）

●放置自転車が減った

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	60	11%	3.32
少しそう思う	4点	140	25%	
変わらない	3点	74	13%	
あまりそう思わない	2点	68	12%	
全くそう思わない	1点	35	6%	
分からない	-	174	32%	

<有効回答数：551票>

※平均点は「分からない」を除く

●駐輪場に停めやすくなった

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	31	6%	3.08
少しそう思う	4点	101	19%	
変わらない	3点	86	16%	
あまりそう思わない	2点	76	14%	
全くそう思わない	1点	31	6%	
分からない	-	218	40%	

<有効回答数：543票>

※平均点は「分からない」を除く

自転車で ブレーキしよう 温暖化

平成22年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品



⑤まとめ

「気軽に止められる駐輪場整備の推進」については、駐輪場の再編や駐輪場の附置義務化を実施しました。今後はよりきめ細かな需要への対応や有料化についての検討が必要です。

「大分駅周辺における駐輪場整備の推進」は、ほぼ計画どおりに実施していますが、今後も駐輪需要の増大が見込まれるため、引き続き計画的に整備を行っていく必要があります。

「自転車の盗難防止と放置自転車の返還の推進」については、ICT や IoT 等の新たな技術の進歩が見られることを踏まえ、国や他自治体の動向を見据えながら対応を検討する必要があります。

「放置自転車の適切な処理・有効活用の推進」については、条例の制定等を実施しました。今後は放置自転車等や長期駐輪の自転車の処理について前述の IoT 等の技術の活用を含めた検討が必要です。

こうした取組を通して、特に中心市街地の放置自転車等はほぼ解消されるなど、大きな成果が上がっており、「安心・便利に止められる空間づくり」が進んでいます。今後は、放置自転車等に係る業務の効率化を図るなど、さらなる取組が求められています。

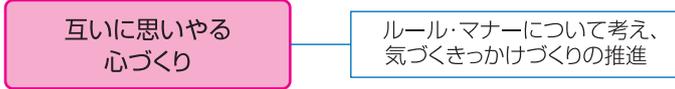


(6) 互いに思いやる心づくり

①取組の概要

目標「Ⅳ 自転車に乗る人が楽しく、やさしいまち おおいた」の環境づくり「互いに思いやる心づくり」の中で示されている「ルール・マナーについて考え、気づききっかけづくりの推進」について検証します。

■「ルール・マナーについて考え、気づききっかけづくりの推進」の概要



②取組状況

自転車ルール・マナーは子どもから大人まで、全ての世代に対して行う必要があることから、イベントや街頭指導等、あらゆる機会を捉え、また警察署や交通安全協会等の関係機関と協力しながら、啓発を継続的に行っていきます。

自転車の良さを再認識し、その利用を促進するとともに、自転車の利用のルール・マナーに対する理解を深めてもらうため、「自転車が似合うまち おおいた」をテーマにした標語コンクールを平成17年度から毎年実施しており、「OITA サイクルフェス」の開会式の中で表彰式を行っています。

■標語コンクール表彰式



小中学生に対しては、平成23年度から「おでかけ自転車マナーアップ教室」を毎年実施しており、受講した児童には「大分市自転車セーフティーカード」を交付しています。

高校生に対しては、平成20年から「大分市自転車マナーアップ推進モデル校」の指定を各警察署と連携して毎年行っており、高校が独自の取組を実施するなど積極的に自転車ルール・マナーの改善に取り組んでいます。

また、平成30年9月9日、「大分市自転車利用推進懇話会」から大分市長に対し、大分市内の自転車通学の高校生に対しヘルメット着用の義務化に関する提言が行われました。これを受け、平成31年2月、大分市都市交通対策課から大分県教育委員会教育長に対し、自転車通学の高校生に対するヘルメット着用の義務化の推進についての要望書を提出しました。

自転車の マナーもあなたの お人柄

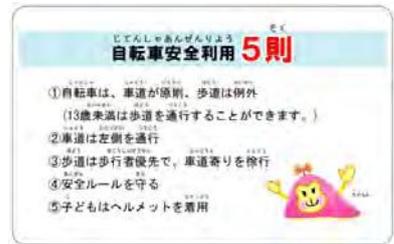
平成22年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品



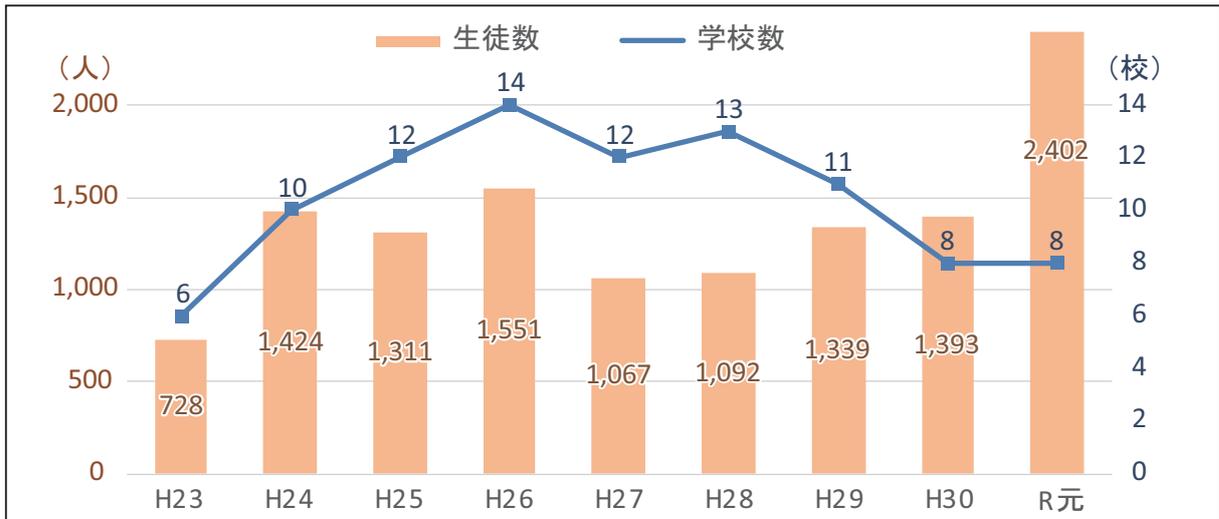
■おでかけ自転車マナーアップ教室、セーフティーカードの交付（小学生）



氏名	大分 太郎
小学校	大分市立●●小学校
交付	令和元年●月●日
交通安全ルールを守ります。	
自転車マナーアップ教室に参加し、自転車の交通ルールと正しい乗り方を学んだことを証します。	
大分市自転車セーフティーカード	
大分市自転車走行空間ネットワーク整備推進協議会	



■おでかけ自転車マナーアップ教室実施状況



■ OITA サイクルフェス !!! や市内の小学校におけるウィーラーズクール※



※「ウィーラーズクール」とは、ベルギー発の自転車教室で元々は自転車競技の底辺拡大を目指すものだが、日本では独自の自転車を取り巻く事情を考慮し、自転車の知識、交通ルール・マナーだけでなく、自転車操作技術の習得とその向上を楽しく伝えるものとなっている。

■マナーアップ推進モデル校の指定（指定書の交付）





■ 自転車マナーアップ推進モデル校指定状況及びモデル校における交通指導の状況

年度	指定高校		
H20	大分西		
H21	大分西	大分商業	
H22	大分商業	大分東明	
H23	大分東明	大分上野丘	
H24	大分高校	情報科学	大分豊府
H25	大分豊府	大分鶴崎	大分工業
H26	大分西	大分東	大分南
H27	岩田	鶴崎工業	大分雄城台
H28	大分上野丘	情報科学	大分東明
H29	大分高校	大分鶴崎	大分工業
H30	岩田	大分東	大分南
R1	大分東明	鶴崎工業	大分雄城台



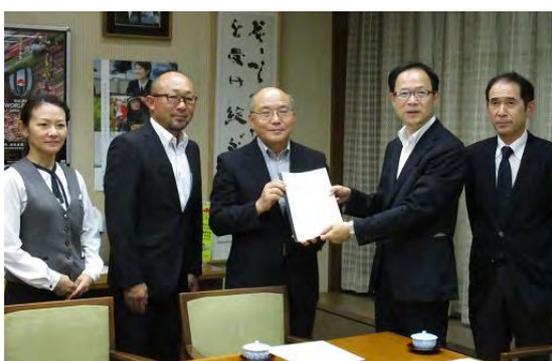
■ 商業施設における啓発活動



■ 学校周辺における啓発活動



■ 自転車の安全利用に関する提言（平成30年9月、大分市自転車利用推進懇話会）



行ってみよう あのまちこのまち 自転車で

平成23年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品



③事業効果の検証

アンケート調査によれば、自転車ルール・マナーの遵守状況に関する項目については、市民にとって改善しているとはあまり感じられていない傾向にあります。また、自由回答には自転車ルール・マナーの改善に関する意見が最も多く寄せられました。

■アンケートの評価（自転車ルール・マナー関連）

●自転車ルール・マナーを守る人が増えた

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	17	3%	2.53
少しそう思う	4点	76	14%	
変わらない	3点	116	21%	
あまりそう思わない	2点	134	24%	
全くそう思わない	1点	90	16%	
分からない	-	120	22%	

<有効回答数：553票>

※平均点は「分からない」を除く

④まとめ

「ルール・マナーについて考え、気づききっかけづくりの推進」については、あらゆる機会を捉え、特に子ども向けの啓発に積極的に取り組んできました。近年の自転車事故件数の減少に寄与しているものと考えられる一方で、毎年200件を超える自転車事故が発生しています。

また、電動アシスト自転車が運転免許返納後の高齢者の有効な移動手段の一つとして注目されていることなどに伴い、高齢者を含めた一般の方を対象とした取組も含め、ルール・マナーの周知啓発をさらに進めるため、今後も継続的に取り組む必要があります。

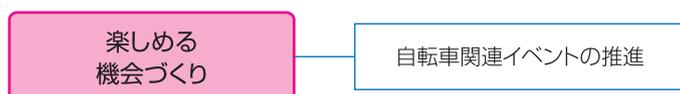


(7) 楽しめる機会づくり

①取組の概要

目標「IV 自転車に乗る人が楽しく、やさしいまち おおいた」の環境づくり「楽しめる機会づくり」の中で示されている「自転車関連イベントの推進」について検証します。

■「自転車関連イベントの推進」の概要

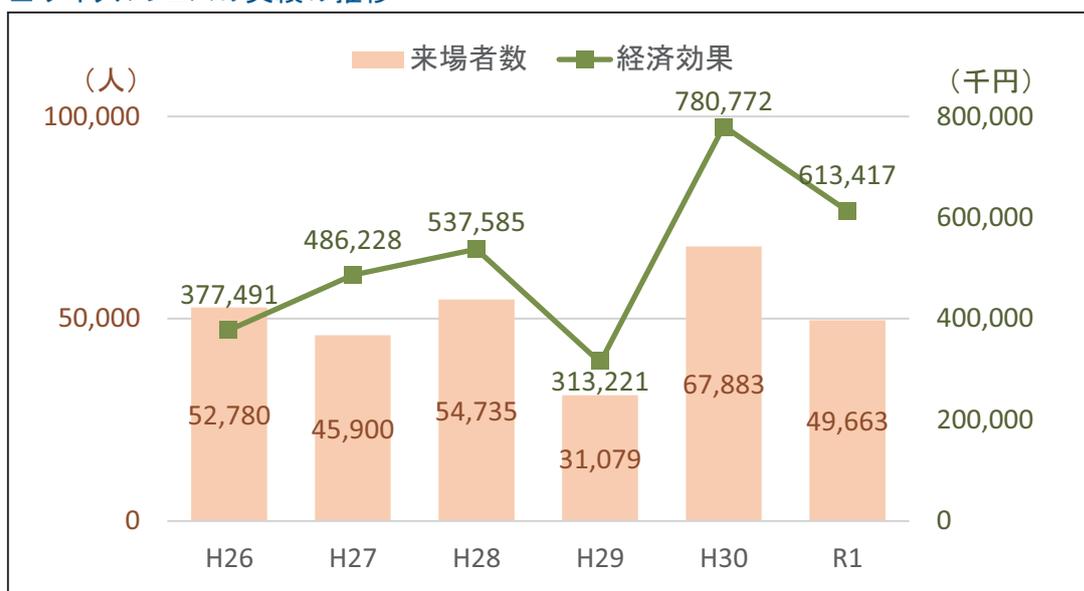


②取組状況

平成17年度に大分スポーツ公園で「サイクルフェスタ」を実施して以降、別大国道を使った「別大国道サイクル&ジョグ」、「別大ロードフェスティバル」といったサイクルイベントを開催してきたほか、日本自転車競技連盟主催の「全日本自転車競技選手権大会」を誘致するなど、レースを含めた自転車イベントの実績を重ねてきました。

平成26年度以降は、自転車ロードレースを核として、自転車ブースの出展や自転車乗り方教室「ウィーラースクール」等を行う自転車総合イベント「OITAサイクルフェス」を開催しています。自転車ロードレースは、当初、全日本実業団自転車競技連盟（JBCF）が主催する「Jプロツアー」として開催されていましたが、平成30年以降は国際自転車競技連合（UCI）公認の国際レースとして位置付けられています。

■サイクルフェスの実績の推移



自転車で 過ぎゆく街並み ゴミ0大分

平成23年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品



■ おおいたいこいの道クリテリウム（大分いこいの道周辺特設コース〈1 km / 1 周 × 30 周〉）



■ おおいたアーバンクラシック（スポーツ公園周辺特設コース〈11.6 km / 1 周 × 13 周〉）



■ サイクルフェス !!!HIROBA



ママチャリで イクメンパパも 奮闘中

平成 23 年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品



③事業効果の検証

アンケート調査によれば、自転車を楽しむ大会やイベントが増えたと感じられている傾向にあります。

■アンケートの評価（自転車イベント関連）

●自転車を楽しむ大会やイベントが増えた

選択肢	基準点	票数	割合	平均点
そう思う	5点	48	9%	3.29
少しそう思う	4点	113	21%	
変わらない	3点	53	10%	
あまりそう思わない	2点	67	12%	
全くそう思わない	1点	27	5%	
分からない	-	241	44%	

<有効回答数：549票>

※平均点は「分からない」を除く

④まとめ

「自転車関連イベントの推進」については、積極的に取り組んでおり、大分市で国際大会を実施するまでになりました。大分市民だけでなく、市外からも多数参加・来場しており、大きな効果が見られます。今後も市民が気軽に参加できるイベントの充実を図りながら、継続的に取り組む必要があります。



3 検証のまとめ

「大分市自転車利用基本計画」の検証結果について、以下に示します。市民アンケートだけでは事業効果が把握できない部分もあることから、取組状況や今後に向けての考え方は独自に判断しています。

■ 検証のまとめ

	取組	取組状況	今後に向けて（案）
I 自転車で元気、きれいなまち おおいた			
きれいな環境、健康づくり	ヘルシー&エコ自転車事業の推進	推進、事業完了	自転車の効用の周知等の取組を検討
	自転車通勤（ジテツウ）の推進	推進（主に市職員への広報）	取組継続、企業等への働きかけの手法等は要対応検討
II 自転車に乗りたくなるまち おおいた			
使いやすいしくみづくり	自転車と他の交通機関との連携の推進	推進、各鉄道駅は整備済	バス停留所付近の駐輪スペース確保は要対応検討
	レンタサイクル事業の推進	積極的に推進	取組継続
乗りたくなるきっかけづくり	自転車マップの作製、活用の推進	積極的に推進	取組継続
	わかりやすい自転車案内誘導サイン整備の推進	一部で推進	今後の取組は要対応検討
	自転車を活かした観光・地域振興の推進	一部で推進	取組継続、さらなる取組充実について検討が必要
III 自転車に快適に乗れるまち おおいた			
安全・快適ネットワークづくり	ネットワーク整備の推進	積極的に推進	取組継続
	自転車・歩行者が共存する安全・安心な歩道整備の推進	一部で整備	既存自歩道の考え方の検討が必要
	自転車レーンの設置の推進	積極的に推進	「ネットワーク整備の推進」の中で取組継続
安心・便利に停められる空間づくり	気軽に停められる駐輪場整備の推進	積極的に推進	きめ細かな需要への対応、有料化は要対応検討
	大分駅周辺における駐輪場整備の推進	積極的に推進	取組継続
	自転車の盗難防止と放置自転車の返還の推進	一部で推進	国等の動向を見ながらIoT活用等の要対応検討
	放置自転車の適切な処理・有効活用の推進	積極的に推進	国等の動向を見ながらIoT活用等の要対応検討
IV 自転車に乗る人が楽しく、やさしいまち おおいた			
互いに思いやる心づくり	ルール・マナーについて考え、気づききっかけづくりの推進	積極的に推進	取組継続
楽しめる機会づくり	自転車関連イベントの推進	積極的に推進	取組継続

ライトつけ 事故消し守ろう 命の灯

平成 24 年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品

自転車は みんなのマナーが 免許証

平成 24 年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品

大分の 今を発見 自転車で

平成 24 年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

街のよさ 自転車目線 再発見

平成 25 年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品

自転車で エコなドライブ 風爽快

平成 25 年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品

やっちゃだめ ケータイ傘さし ヘッドホン

平成 25 年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品



第4章 課題の整理



1 課題の抽出

現状把握等

国内の自転車施策の動向から見た新たな課題

- 自転車の整備点検等
- コンパクトシティへの対応
- インバウンドへの対応
- モビリティとしての新たな位置づけ
- 災害時の自転車の活用
- サイクルスポーツの環境づくり

自転車の特性

- 自転車の様々なメリット（心身への効果、スポーツ・レジャーとしての魅力、優れた経済性、利便性、都市・社会への効果、環境への効果等）

国内の自転車利用動向

- 自転車の利用ニーズ
- スポーツ・電動アシスト自転車の販売台数が増加
- 自転車利用の減少

大分市の自転車利用動向

- 全国平均と同程度（16%）の自転車利用率
- まちの大きな変化（駅南、駅周辺、中心市街地）
- 放置自転車の激減
- 大規模駐輪場が整備された一方で、きめ細かな駐輪需要への対応が課題
- 自転車ネットワークが広がりつつある
- 自転車ルール・マナーの浸透が課題
- 自転車事故は減少傾向

市民意向（アンケート結果の抜粋）

- 通勤距離：半数近くが5km以内
- 買い物距離：7割強が3km以内
- 利用目的は買い物、通勤、遊びの順に多い。
- 自転車に良く乗る理由は、自由に移動でき、便利で手軽、目的地に早く着く、経済的、健康に良い等で、心身への良い影響を感じている傾向にある。
- 自転車にあまり乗らない人は、安全で便利な道路（自転車レーン等）があり、駐輪場が目的地やその近くであれば、今より自転車に乗りたいたいと思える傾向にある。
- 10代は自転車に良く乗るが、20代以上は自転車にあまり乗らない。
- 以前に比べ、自転車利用者にスマートに乗る人が増え、駐輪場に停めやすくなり、放置自転車が減り、自転車を楽しむ大会やイベントが増えたと感じられている。一方で自転車走行空間に関連する安全性、公共交通機関との連携、自転車ルール・マナー等については改善があまり感じられていない傾向にある。
- 今後も大分市が自転車関連施策に積極的に取り組むべきと思う割合は、「そう思う」と「少しそう思う」の合計で73%となっている。
- 今後の取組として、「自転車ルール・マナー啓発や交通安全教育等の推進」、「自転車専用の道路を増やす」、「災害時に自転車を活用できる取組や情報提供の推進」、「小規模な駐輪場を分散して増やす」の順番に望まれている。

課題の抽出

新たな課題に対応した取組が必要。公共交通との連携においてコンパクトシティやインバウンド等を意識する等、既存の取組も見直す必要がある。

自転車のメリットをさらに周知する等、自転車利用を促す取組が必要。

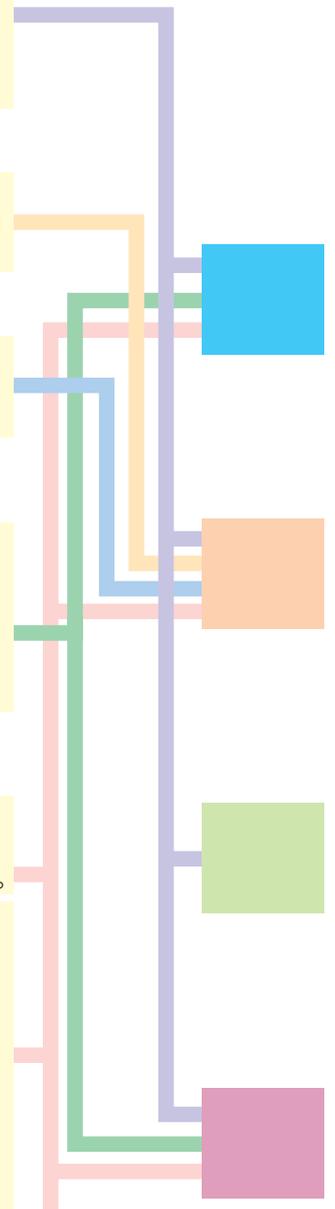
自転車の利用ニーズの傾向を踏まえた、新たな視点からの取組が必要。

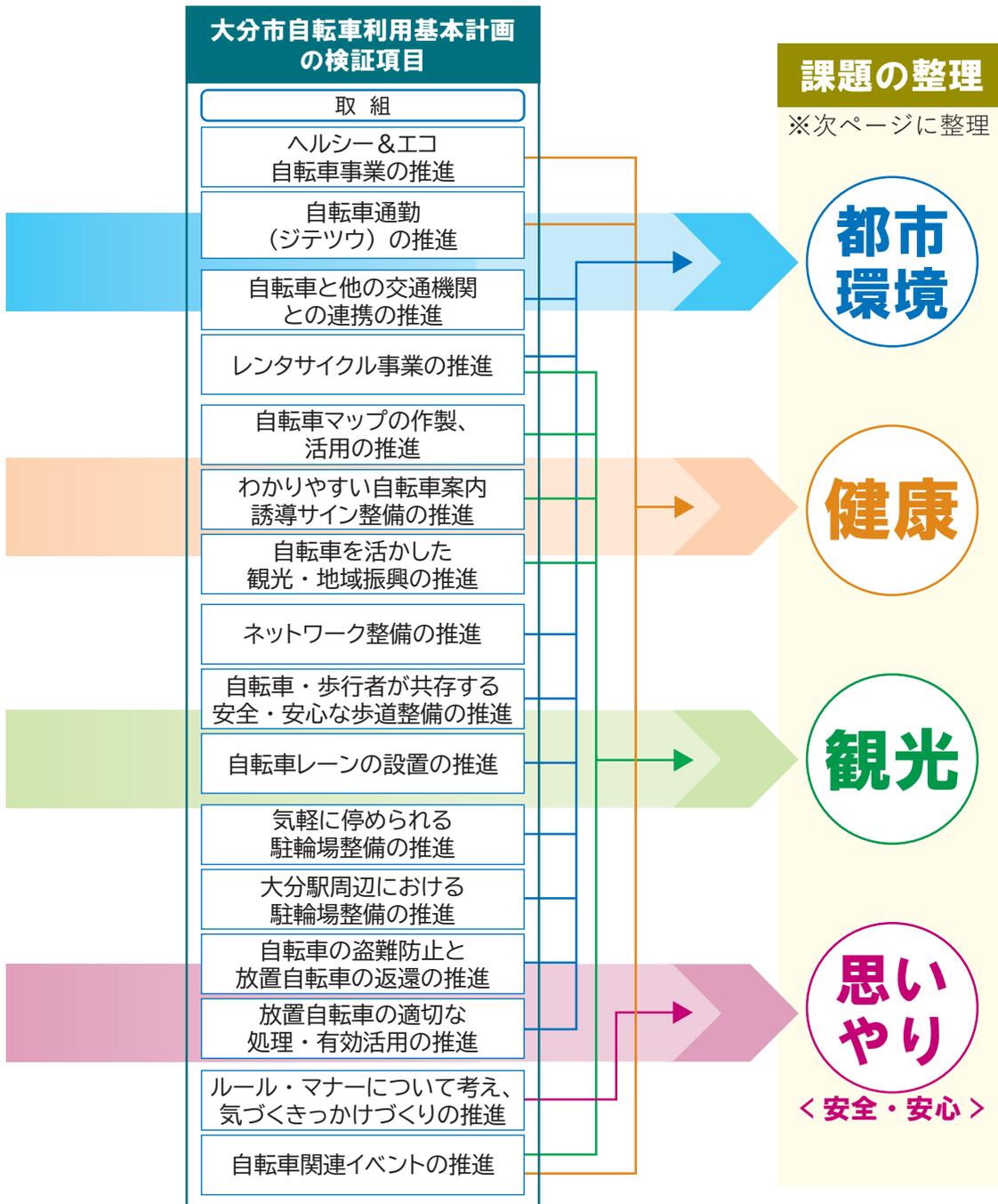
自転車施策の一定の効果がみられる一方で、自転車走行空間の整備や自転車ルール・マナーの啓発等、よりきめ細かな駐輪需要への対応等が必要。

通勤・買い物の移動手段として、潜在的な自転車需要の掘り起こしが必要。

自転車に良く乗る人は、自転車の様々なメリットを感じている。自転車のメリットの広報・啓発や、自転車施策の総合的な推進等により、今後も継続的な自転車利用の促進が必要。また、自転車利用環境のさらなる充実が必要。

今後も自転車関連施策に積極的に取り組む必要がある。自転車利用環境の改善が見られる一方で、今後のさらなる自転車通行空間の整備や自転車ルール・マナーの啓発等が特に望まれている。





休日は 家族で自転車 街探訪

平成 25 年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品



2 課題の整理

現状等を踏まえ、抽出した課題を4つの分野に整理します。

(1) 都市環境

良好な都市環境の形成のため、自転車利用環境の向上による自転車の利用促進が求められており、今後も自転車通行空間の整備や駐輪環境の充実等に継続して取り組む必要があります。

持続可能な都市やコンパクトシティを形成するうえでも自転車は重要な役割を担っており、まちづくりの視点からの自転車の新たな位置づけが求められるとともに、公共交通機関との連携に加えて、近年世界的な広がりを見せるシェアサイクルの充実や、今後の普及が見込まれるMaaS等の新たな動向を注視することが必要です。

(2) 健康

自転車は心身を健康にする高い効果があり、自転車のメリットはスポーツ・レジャーとしての魅力や経済性、利便性にとどまらず、都市や社会に対しても大きな恩恵をもたらします。このため、自転車のメリットや魅力を市民にもっと知ってもらい、通勤・通学、買い物、余暇など、様々な場面における自転車利用を促進することで、市民の心身の健康増進を図ることが必要です。

そのためには、自転車のメリットや電動アシスト自転車の有効性など、自転車に関する様々な情報発信を行うとともに、サイクルスポーツに親しむ機会の創出やハンドサイクルやタンDEM自転車等の多様な自転車を楽しめる環境整備を進めることにより、市民が自転車に乗る機会や楽しむ機会を増やすことが必要です。

(3) 観光

市民が大分市の魅力を再発見することはもとより、市外からの観光客やインバウンドの訪日外国人観光客が手軽に自転車に乗ることができる環境を構築するとともに、自転車を利用した観光やサイクリングを楽しめる取組を実施することで、観光振興や地域振興を図ることが求められています。そのためには、市民が気軽に参加できるイベントの実施や自転車の拠点づくり、サイクリングルートの充実のほか、大分県や他自治体と連携した広域的な取組等が必要で

(4) 思いやり〈安全・安心〉

自転車を安全に利用し、関連の事故を減らすためには、すべての市民が自転車ルール・マナーを理解し、自転車利用時にルール・マナーを守ると同時に、互いに思いやりを持って共存しようとする市民意識の醸成が必要です。

また、自転車の点検整備や自転車損害賠償責任保険加入の促進、自転車ヘルメット普及など、自転車そのものや利用者の安全を確保するための取組に加え、災害時における自転車活用方策の検討の取組が必要で

おつかいは エコ自転車と マイバック

平成26年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品



第5章 基本計画



1 基本方針

大分市では、これまで「大分市自転車利用基本計画」に基づき、環境にやさしい、機動性が高い、健康増進にも役立つ自転車に着目し、自転車に関する施策を総合的に展開することにより、「バイシクルフレンドリータウン～自転車が似合うまち～の創造」を進めてきました。

これまでの取組を通して、一定の成果が見られる一方、継続して取り組んでいなければならぬ課題に加え、新たな課題等にも対応していくことが求められています。

こうしたことから、下記に掲げるとおり、自転車が「都市環境」「健康」「観光」「思いやり（安全・安心）」の各分野における課題等の解決に向けた有効なツールとなり、様々な価値を生み出すことをめざす自転車を活かした特色あるまちづくり「バイシクルフレンドリータウン～自転車が似合うまち～の創造」のさらなる推進を図ります。

- ◆都市の自転車利用環境の向上を図ることにより、便利で快適、きれいなまちをつくります。
- ◆自転車の利用を促進することにより、市民の心と体が元気になるまちをつくります。
- ◆観光振興や地域振興に自転車を活用し、まちの魅力がたくさん見えるまち、魅力をつなげるまちをつくります。
- ◆思いやりの心を醸成し、自転車にみんなが正しく乗れる安全・安心なまちをつくります。

■基本方針



バイシクルフレンドリータウン ～自転車が似合うまち～の創造

■「バイシクルフレンドリータウン～自転車が似合うまち～の創造」のシンボル



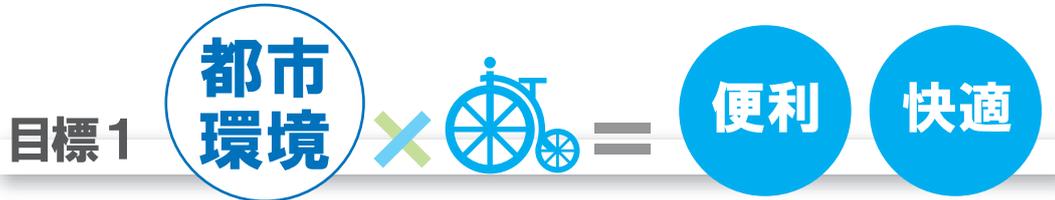
通学の 命を守る ヘルメット

平成 26 年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品

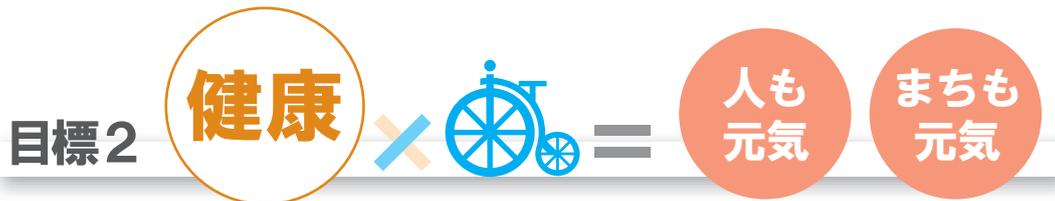
2 目標

(1) 計画目標

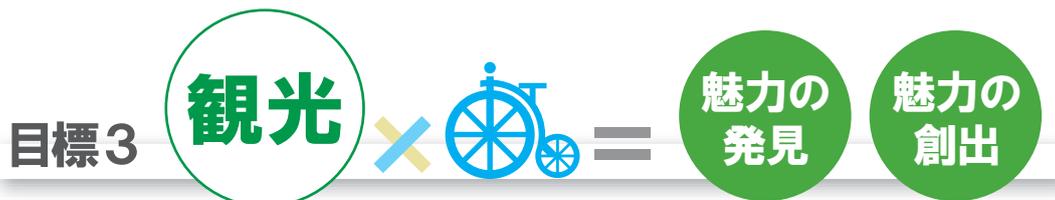
■ 計画目標



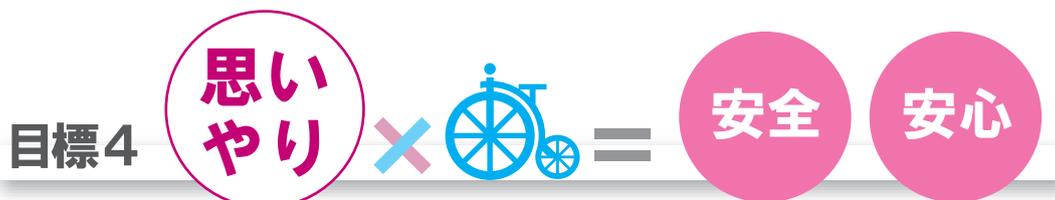
自転車で 便利で快適、きれいなまち おおいた



自転車で 心と体が元気になるまち おおいた



自転車で たくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまち おおいた



自転車に みんなが正しく乗れる安全・安心なまち おおいた

二人乗り 後ろの命も 負えますか？

平成26年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品



(2) 数値目標

計画目標の実現に向け、以下の数値目標の達成を目指します。

■数値目標

設定項目	数値目標		計画目標との主な関連性			
	現状	目標	目標1	目標2	目標3	目標4
①自転車ネットワーク整備延長	16.4 km (令和元年度末)	20 km (令和2年度末目標)	都市環境			
※「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」におけるステップ2（平成28年度～令和2年度）の目標 ※上記計画を改定した後は、その整備目標とする。						
②自転車イベントの観客と参加者の人数	49,834人 (令和元年度)	73,000人 (年間)		健康	観光	
※「OITAサイクルフェス」をはじめ、その他のサイクリングイベント等の来場者・参加者の合計						
③自転車ルール・マナー啓発活動の回数	21回 (令和元年度)	35回 (年間)				思いやり ＜安全・安心＞
※「おでかけ自転車マナーアップ教室」や街頭啓発その他の講座等の年間の合計						
④自転車事故の件数	244件 (平成30年)	年間250件以下の定着化				思いやり ＜安全・安心＞
※「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」におけるステップ2（平成28年度～令和2年度）の目標 ※上記計画を改定した後は、その整備目標とする。						
⑤自転車を週1回以上利用する市民の割合	28% (平成31年4月)	30% (令和6年頃)	都市環境	健康	観光	思いやり ＜安全・安心＞
※「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」による把握 ※計画期間5年間での目標とする。						

自転車で 巡ろう 南蛮文化の地

平成26年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

3 施策の体系

「バイシクルフレンドリータウン～自転車が似合うまち～の創造」と目標の達成に向けて、多様な施策に取り組みます。

■施策の体系

基本方針



バイシクルフレンドリータウン ～自転車が似合うまち～の創造

目標1 自転車で 便利で快適、きれいなまち おおいた	
都市環境	1. 安全で快適な自転車通行空間づくり (1) 「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の推進 (2) 自転車通行空間を確保するための取組 (3) 自転車案内サイン整備の推進
	2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり (1) 「大分市自転車等駐車場整備計画」の推進 (2) 附置義務による民間駐輪場の確保 (3) 放置自転車対策の推進 (4) 自転車盗難対策の推進
	3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり (1) シェアサイクル事業の推進 (2) サイクルアンドライドの促進 (3) 将来的なMaaS導入を見据えた自転車利用環境の構築 (4) IoT等の活用
目標2 自転車で 心と体が元気になるまち おおいた	
健康	4. 情報発信等による自転車利用の促進 (1) 自転車の魅力の発信 (2) 自転車通勤の促進
	5. サイクルスポーツの普及促進 (1) サイクルスポーツに親しむ機会の創出 (2) 多様な自転車を楽しめる環境づくり
目標3 自転車で たくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまち おおいた	
観光	6. 自転車を活かした観光・地域振興の推進 (1) 市民参加・体験型のサイクリングイベント等の実施 (2) 観光地における自転車利用環境の充実 (3) 自転車マップの充実
	7. サイクルツーリズムの推進 (1) 市域を超えたサイクリングイベントの開催 (2) サイクリングの拠点づくり (3) 広域サイクリングルートの構築
目標4 自転車に みんなが正しく乗れる安全・安心なまち おおいた	
思いやり 〈安全・安心〉	8. 安全な自転車等の普及促進 (1) 安全基準に適合した自転車購入の促進 (2) 自転車の点検整備の促進 (3) 自転車損害賠償責任保険の加入促進
	9. 自転車ルール・マナーの啓発 (1) 自転車安全利用五則の周知 (2) 世代に応じた自転車ルール・マナーの啓発 (3) 自転車ヘルメット着用の促進 (4) 通学路等の安全の確保
	10. 災害時の自転車活用方策の検討 (1) 災害時に備えた市職員の自転車利用の促進 (2) 災害発生時における放置自転車等の活用 (3) 災害発生時におけるシェアサイクルの活用

ヘルメット かぶれば運命 変わるはず

平成27年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品

CO₂ エコ自転車で 減らそうよ

平成 27 年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品

風を切る 見なれた町なみ 通学路

平成 27 年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品

自転車で 健康キャッチ エコゲット

平成 27 年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

自転車に 乗れば感じる 四季の風

平成 28 年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品

自転車は エコ活動の 第一歩

平成 28 年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品



第6章 具体的な取組



目標1 自転車で 便利で快適、きれいなまち おおいた

1 安全で快適な自転車通行空間づくり

〈主な担当課・関係課：都市交通対策課、土木管理課、道路建設課〉

本市における自転車ネットワーク整備については、「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」において具体的に定めることとします。同計画に基づき、自転車利用者が安全かつ安心して自転車を利用できるよう、自転車通行空間のネットワークを計画的かつ継続的に拡大します。

また、国や大分県の自転車活用推進計画においても自転車通行空間の計画的な整備を促進することとされていることから、ネットワーク路線の整備に当たっては、国や大分県と積極的に連携して、国道、県道における自転車通行空間の整備の計画に合わせて、柔軟に対応するよう努めます。

併せて、自転車通行空間が適切に利用されるための取組や目的地へ円滑に案内するためのサインの整備についても検討します。

(1) 「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の推進

「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」に基づき、交通量、事故の現状等の定量的な評価や道路の現状、学校との位置関係、ネットワークの連続性等の定性的な評価を踏まえながらネットワーク路線を選定するとともに、国が示す「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」や各路線における道路交通の現状等を踏まえながら自転車通行空間の整備形態を選択します。

①整備目標

大分市では平成25年度から「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」に基づいて整備を行っています。令和元年度終了時点の実績値は16.4kmで、累計の整備実績は22.1kmとなっています。今後、さらなる整備を進めるため「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」を改定し、令和3年度以降の目標を定めます。

■自転車ネットワークの整備目標と実績値

項目	目標値	実績値	割合 (実績値 / 目標値)	備考
ステップ1	約5 km	5.7 km	114 %	平成25～27年度
ステップ2	20 km	16.4 km	82 %	平成28～令和2年度 ※実績値は令和元年度終了時点
整備実績 (累計)	—	22.1 km	—	

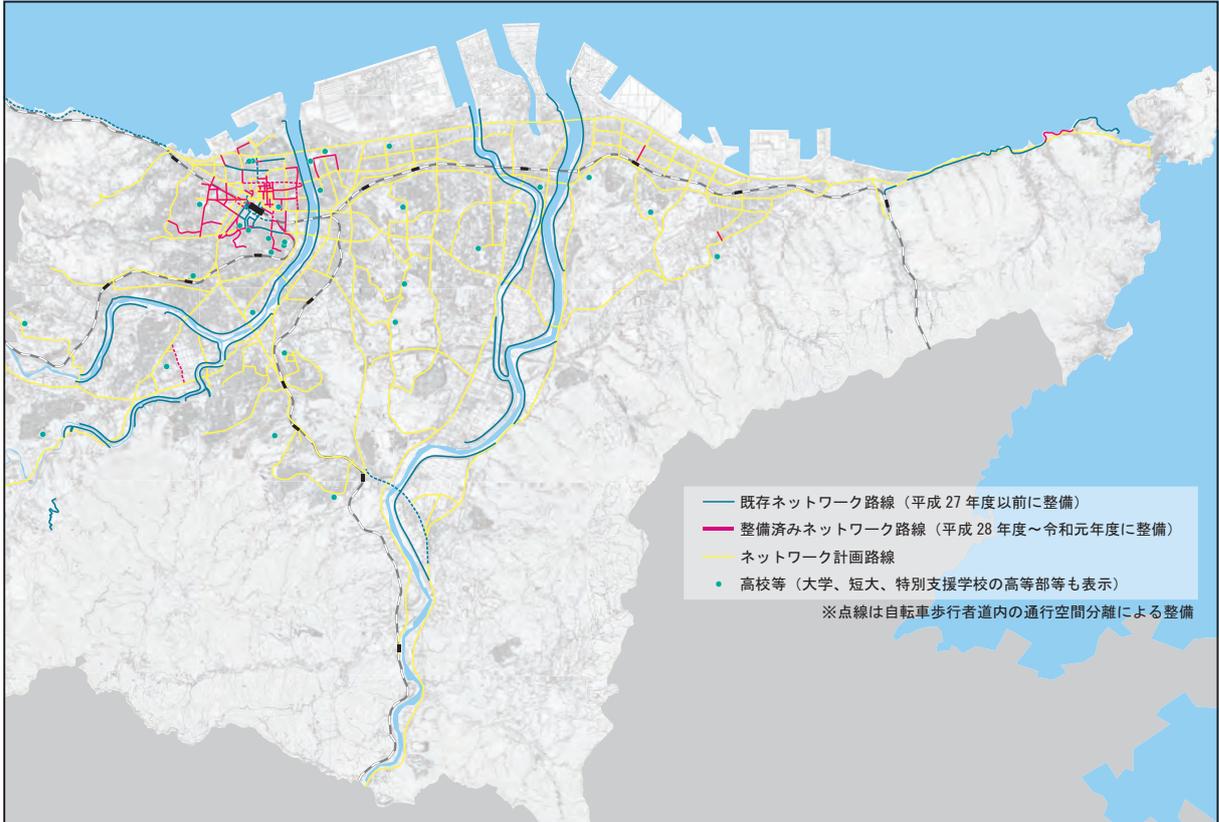
颯爽と 風追うペダル 輝くまち

平成28年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品



②ネットワーク路線

■全体ネットワーク図



資料：「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」

■自転車レーン整備事例



■自転車誘導サイン整備事例



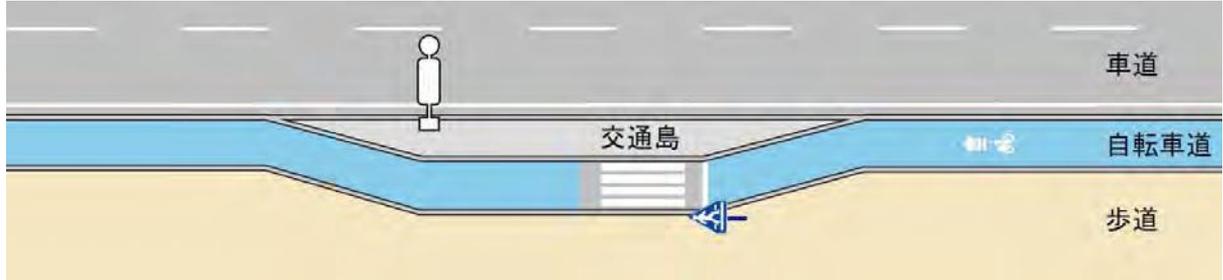


(2) 自転車通行空間を確保するための取組

① バス停対策

自転車道や自転車レーンを整備する際、バスの停車によって自転車も停車せざるをえない状況を改善するため、必要に応じてバス停の交通島の整備方法について検討します。

■ 車道と自転車道との間に交通島のバス停留所を設ける例



資料：「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」（平成28年7月改定）

② 自動車の駐車対策

自転車通行空間へ自動車が駐停車することにより自転車の円滑な交通が阻害されることを防ぐため、関係者との調整等により需要と利便性を考慮しながら自動車の駐車スペースが確保されるよう努めます。

③ 道路事業との連携

道路空間を活用した自転車通行空間の確保のため、道路事業等における歩行空間のバリアフリー化、通学路における交通安全の確保、無電柱化等の関連する施策との連携を図ります。

(3) 自転車案内サイン整備の推進

主なルート of 起終点やルート上に、その設置場所の現状を踏まえてより効果的な手法を検討しながら、わかりやすい自転車利用者向け案内サインの整備を推進します。

■ ブルーライン（愛媛県）



■ 地点標（愛媛県）



補助輪を はずせた背中 誇らしげ

平成28年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品



2 便利で適切に利用される駐輪環境づくり

〈主な担当課・関係課：都市交通対策課、生活安全・男女共同参画課〉

本市における駐輪場整備については、「大分市自転車等駐車場整備計画」において具体的に定めることとします。同計画に基づき、需要に応じた駐輪場整備を進めるとともに、放置自転車対策を継続的に実施します。

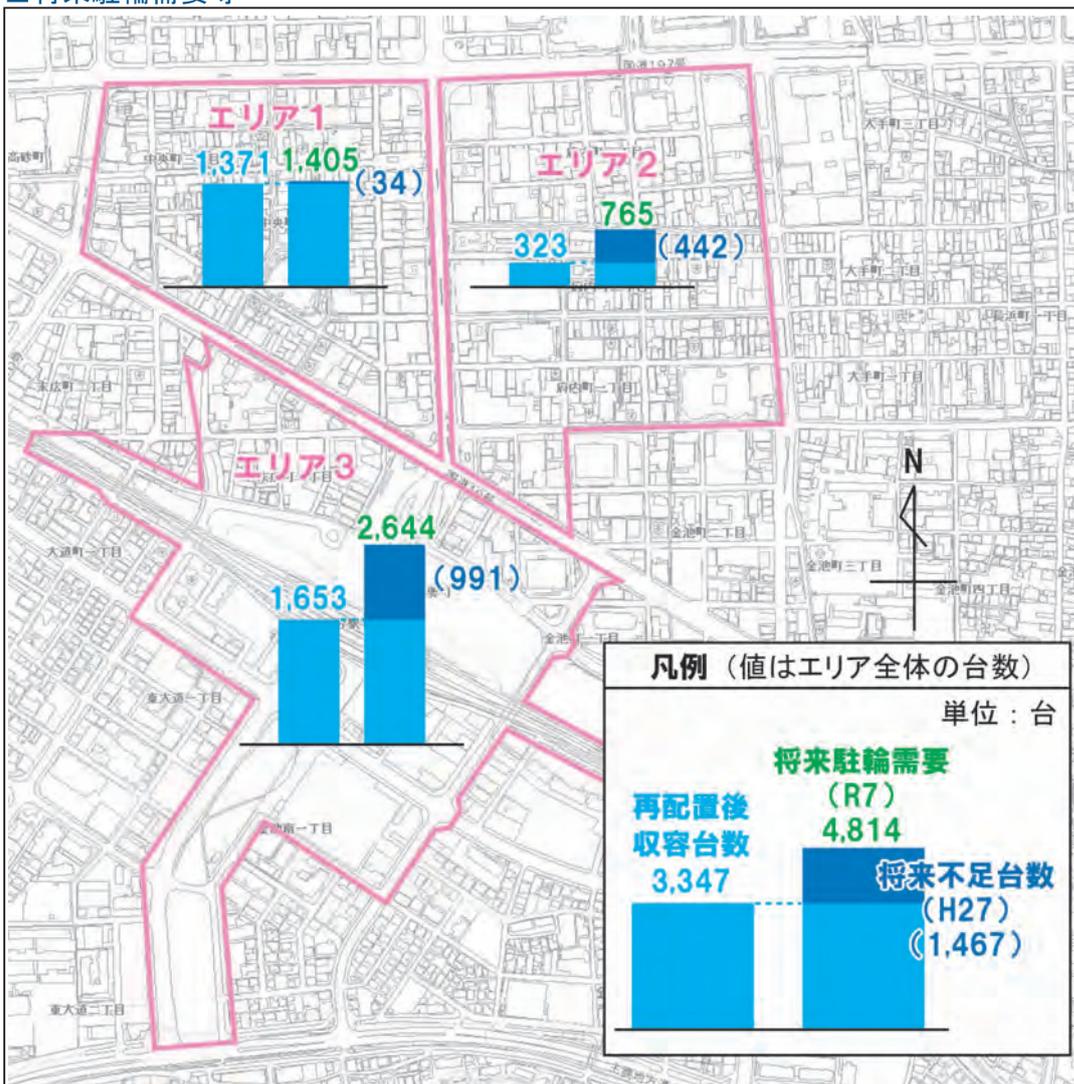
(1) 「大分市自転車等駐車場整備計画」の推進

「大分市自転車等駐車場整備計画」に基づき、行政の責務として公共の場における駐輪需要に応じた駐輪場の整備を推進します。中心市街地の駐輪場においては、将来的な有料化も視野に入れ、その必要性や効果等について検討します。

① 中心市街地及び大分駅周辺における駐輪場の確保

エリア毎に将来の需要予測を行い、将来不足台数を算出して必要な駐輪場の確保に努めています。今後も駐輪の現状を踏まえながら駐輪場を整備します。

■ 将来駐輪需要等



資料：「大分市自転車等駐車場整備計画」



② 利便性に配慮した小規模駐輪場の配置

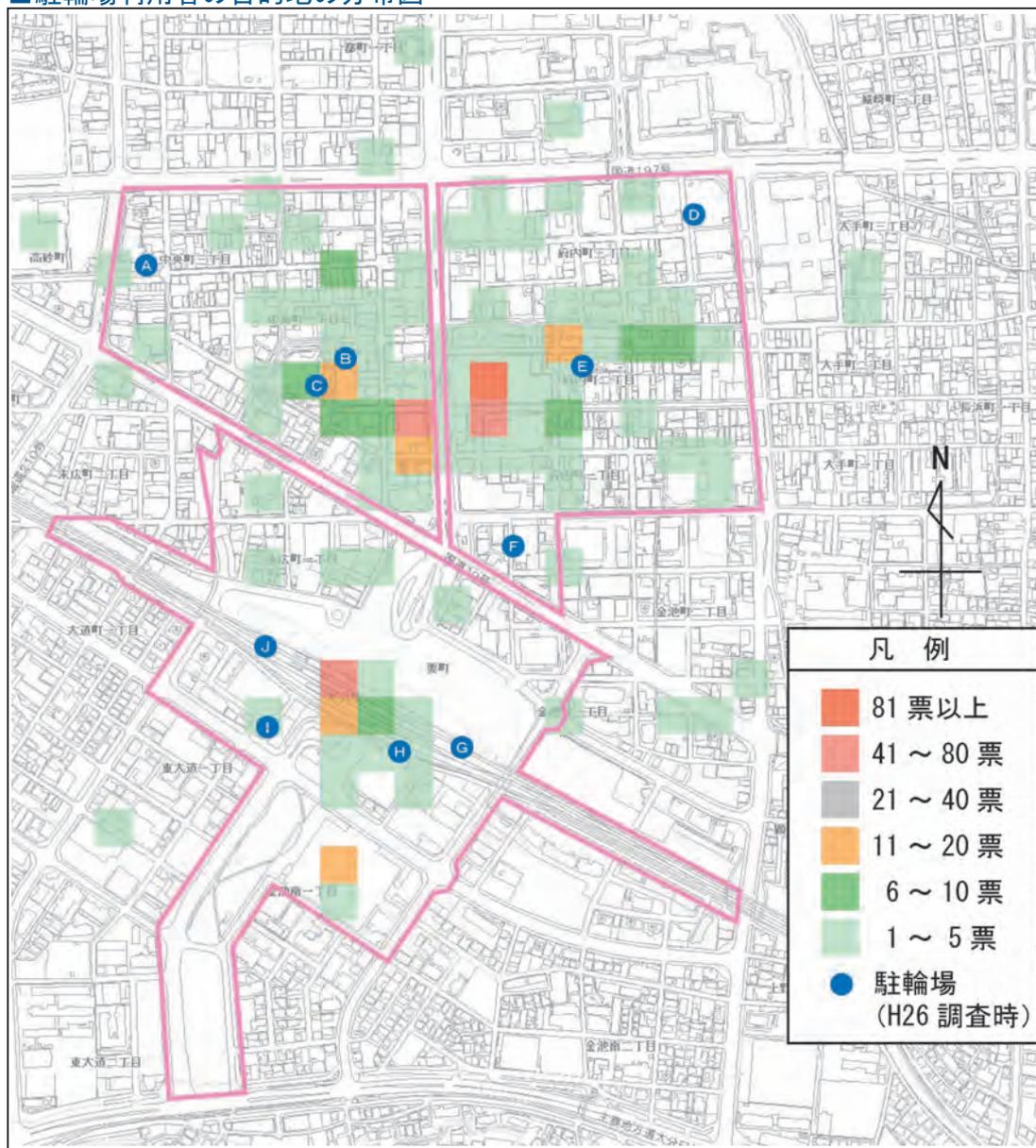
平成26年3月に実施した利用者アンケート調査（駐輪場における聞き取り調査）における目的地（終点）の票数を、メッシュ状に集計した図を見ると、駐輪場利用者の目的地は大規模商業施設と大分駅が多いものの、ある程度の分散も見られます。

これらの駐輪需要が集中する目的地やその他の分散する駐輪需要を踏まえ、大規模駐輪場を補完する小規模駐輪場の分散配置等を検討します。

■ 空きスペースを活用した府内五番街駐輪場



■ 駐輪場利用者の目的地の分布図



資料：「大分市自転車等駐車場整備計画」



③大分駅以外の鉄道駅における駐輪場の確保

大分駅以外の鉄道駅周辺部における駐輪場については、当面は需要を満たしているものと考えられますが、今後の各駅の動向を踏まえながら、必要性が生じた場合はさらなる駐輪場整備を検討します。

(2) 附置義務による民間駐輪場の確保

大分市自転車の放置の防止等に関する条例に基づく民間の自転車及び原付バイクの駐車場（附置義務駐輪場）の設置により、適切に民間の駐輪場を確保します。

(3) 放置自転車対策の推進

駐輪場の整備と併せて「大分市自転車等の放置の防止等に関する条例」に基づく撤去・保管等のもとより、自転車等放置禁止区域の指定等の取組により、今後も放置自転車対策に継続的に取り組めます。これに当たっては、放置自転車等の発生を未然に防止することをこれまで以上に重視するとともに、対策に係る業務を効率的に執行するよう努めます。

①放置禁止区域における放置自転車対策

放置禁止区域の周知及び放置禁止区域内における放置自転車等の解消を図ります。また、必要に応じて放置禁止区域の見直しを検討します。

②放置自転車等の保管所・返還所の設置

放置自転車等の保管と返還に係る業務の効率化と返還の迅速化を図るため、六坊北町に放置自転車等の保管と返還の機能を備えた新たな施設を整備します。

③放置自転車等の有効活用

条例に基づく保管期限を過ぎた放置自転車等について、車両の状態に応じて整備等を行い、リサイクル等による有効活用を図ります。

(4) 自転車盗難対策の推進

①市民の自転車盗難に対する防犯意識の向上

鍵かけの励行や防犯登録の促進について街頭啓発等で呼びかけ、防犯意識の向上を図り、自転車の盗難の減少に努めます。

②情報通信技術を活用した自転車の管理

IoT や IC タグ等の情報通信技術を駐輪場における自転車の管理や盗難車両の返還に役立つ取組について、国や他自治体の動向を踏まえながら、必要に応じて検討します。



3 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり

〈主な担当課・関係課：都市交通対策課〉

公共交通機関との連携を強化するなど、自転車が交通施策の一つとして効果的な役割を担うことができるよう、最新の動向を踏まえながら、その活用方法について検討します。

(1) シェアサイクル事業の推進

現在実施している「大分市広域レンタサイクル実証実験」を通じ、適正なサイクルポート配置や事業採算性に関する効果検証を行い、持続可能なシェアサイクル事業を構築します。自転車ネットワークや観光地・商業施設等の様々な条件を考慮しつつ、効果的なポート設置により、利便性の向上を図ります。

■シェアサイクルポート



また、現在実施しているレンタサイクル事業は、シェアサイクル事業と需要が重複する部分もあるため、シェアサイクル実証実験を通してその効果等を検証するとともに、レンタサイクル利用者の意見の聴取等を行い、必要に応じて事業の見直しについて検討します。

(2) サイクルアンドライドの促進

鉄道駅やバス停付近に自転車を停めて公共交通機関を利用するサイクルアンドライドを促進します。

■大分市サイクルアンドバスライド実証実験チラシ



(3) 将来的な MaaS 導入を見据えた自転車利用環境の構築

飛行機、電車、バス、タクシー等の公共交通機関に加え、レンタカー、シェアサイクル等の様々な交通手段を考慮した目的地までの移動パターンを提案し、予約から決済までオンライン上で一括して行うことで、利便性と公共交通の利用向上に資する MaaS の導入について、最新の動向を踏まえながら検討します。

(4) IoT 等の活用

自転車の IoT 化や新しい技術により、走行ログの分析・検証によるシェアサイクルの適正なポート配置や AI による再配置予測、駐輪場における自転車の管理、MaaS の導入など、自転車に関する業務の効率化やサービスの高度化等の可能性が広がることから、その活用について検討します。



目標2 自転車でおおいた 心と体が元気になるまち

4 情報発信等による自転車利用の促進

〈主な担当課・関係課：都市交通対策課、生活安全・男女共同参画課、健康課、環境対策課、おおいた魅力発信局〉

より多くの市民が自転車に乗ることを促進するため、自転車が心身を健康にする効果等のメリットをはじめとする自転車の様々な魅力を伝えるとともに、自転車通勤を促進します。

(1) 自転車の魅力の発信

① 自転車を活用した健康づくりの情報発信

自転車が生活習慣病の予防や体力増進等の健康づくりに役立つことを踏まえ、自転車を活用した健康づくりについて発信する取組について検討します。

② 自転車のメリット等の情報発信

自転車のメリットや自転車を取り入れたライフスタイル等を分かりやすく提案するなど、自転車の魅力に関する効果的な情報発信について検討します。

③ 電動アシスト自転車の普及促進

電動アシスト自転車は、特に運転免許返納後の高齢者等の有効な移動手段にもなり得ることから、そのメリットを発信し、普及を促進します。

④ 標語コンクールの実施

「自転車が似合うまち おおいた」をテーマとした標語コンクールを今後も継続して実施します。

⑤ 自転車に関する情報発信方法の検討

自転車関連施策の情報を市の公式ホームページで発信している一方、「OITA サイクルフェス」やシェアサイクル事業はそれぞれのホームページがあります。今後は、自転車に関する総合的な情報や自転車の魅力を発信する新たな方法について、様々な事例を参考にしながら、ホームページのコンテンツの再検討、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）や動画配信サービスの活用等も含めて検討します。

(2) 自転車通勤の促進

① 市職員の自転車通勤促進

大分市役所の職場内広報紙「ジテツウ」の発行を今後も継続し、市職員の自転車通勤を促進します。

② 事業所等における自転車通勤促進

事業所等が自転車通勤のメリットを理解し、自転車通勤を導入できるよう、自転車活用推進官民連携協議会が公開している「自転車通勤導入に関する手引き」等を活用しながら、事業所等における自転車通勤を促進する方策について検討します。

■ 自転車通勤導入に関する手引き



資料：自転車活用推進官民連携協議会



5 サイクルスポーツの普及促進

〈主な担当課・関係課：都市交通対策課、スポーツ振興課〉

サイクルスポーツに身近に親しむ機会を創出し、その楽しさ、魅力を発信します。また、障がいの有無にかかわらず、誰もが自転車を楽しみ、安心して走行できる環境づくりに努めます。

(1) サイクルスポーツに親しむ機会の創出

①「OITA サイクルフェス」の開催

自転車ロードレースを核として、自転車ブースの出展や自転車教室等を行う自転車総合イベント「OITA サイクルフェス」は、プロの自転車競技を間近で体感することができ、自転車に関する様々なイベントを通してその魅力を発信することができる貴重な機会となっていることから、大分市の新しい魅力として定着するよう今後も継続して取り組みます。



②サイクルスポーツに親しむ環境づくり

自転車競技施設やBMX（バイシクルモトクロス）ができる公園や広場、自然環境を利用したMTB コースなど、自転車やサイクルスポーツに親しめる環境づくりについて検討するとともに、各種団体等が主催する自転車関連イベントに対する支援・協力を行います。



(2) 多様な自転車を楽しめる環境づくり

多様な自転車が安心して走行できる環境づくりに向けて、タンDEM自転車やハンドサイクル、パラサイクリング競技等の周知を行うとともに、それらを体験する機会の創出に努めます。



目標3 自転車で たくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまち おおいた

6 自転車を活かした観光・地域振興の推進

〈主な担当課・関係課：都市交通対策課、観光課〉

市民が自転車を通して大分市の地域の魅力をより深く感じ、観光振興や地域振興につなげるため、市民参加・体験型のイベントの開催について検討するとともに、観光地における自転車利用環境の充実を図ります。

(1) 市民参加・体験型のサイクリングイベント等の実施

市内各地区の観光資源や歴史資源など、新たな魅力や隠れた魅力に触れていただけるよう、地域を自転車で巡るサイクリングイベントの開催や支援、体験プログラムの充実について検討します。



(2) 観光地における自転車利用環境の充実

自転車ネットワークの整備路線の選定に当たり、観光地へ向かう路線であることを評価の一つとして位置付けており、順次、自転車ネットワークの拡大を図ります。

また、観光地におけるサイクルスタンドの設置やシェアサイクルのポート設置等を検討します。



(3) 自転車マップの充実

「おおいた自転車マップ」について、コンテンツのさらなる充実やスマートフォンの普及等を考慮した電子版のリニューアル等を検討します。

気をつけてね 毎朝背中に 母の声

平成29年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品



7 サイクルツーリズムの推進

〈主な担当課・関係課：都市交通対策課、企画課、観光課、農政課、都市計画課〉

大分市のアクセスの良さや地形を活かして、サイクリングで観光しやすい環境づくりを構築するとともに、観光資源巡りや温泉等とサイクリングを組み合わせるなどコンテンツの充実を図り、観光客の満足度を高めることによりサイクルツーリズムを推進します。

(1) 市域を超えたサイクリングイベントの開催

大分市は周辺市町と「大分都市広域圏」を形成していることから、構成自治体と連携して、各自治体を巡り、その魅力を楽しめるコースを設定したサイクリングイベントの開催を検討します。

(2) サイクリングの拠点づくり

大分駅等の交通結節点や道の駅等の観光施設など、自転車で訪れる可能性が高い場所において、サイクルスタンド、メンテナンススペース等を備えたサイクリストが気軽に利用できるサイクリングの拠点の整備を進めます。

■ サイクル・ハブ（大分空港）



■ サイクリングの拠点（宇都宮市）



資料：大分県“Cycling OITA”ホームページ（www.cycling-oita.jp）

(3) 広域サイクリングルートの構築

大分県内には、温泉や景勝地など優れた観光資源が豊富にあることから、広域的なサイクリングルートの構築について、大分県や関係自治体、事業者等と連携して取り組みます。



このまちを 走ったぶんだけ 好きになる

平成 29 年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品



思いやり

＜安全・安心＞

目標4 自転車に みんなが正しく乗れる安全・安心なまち おおいた

8 安全な自転車等の普及促進

＜主な担当課・関係課：都市交通対策課、生活安全・男女共同参画課、学校教育課＞

自転車利用者の安全を確保するため、イベント時や自転車教室等の機会を通して周知を行うなど、関係団体等とも連携しながら、十分な安全性を持った自転車の購入と自転車の点検整備、自転車賠償責任保険の加入の促進に努めます。

(1) 安全基準に適合した自転車購入の促進

自転車の安全基準であるBAA、SG等の周知に努めるとともに、これらの基準の満たした自転車の購入を促進し、自転車利用者の安全の確保に努めます。

■ BAA マーク



(2) 自転車の点検整備の促進

自転車利用者の安全を確保するため、自転車利用者による日常的な点検はもとより、自転車店等の専門家による定期的な点検整備を推奨します。

(3) 自転車損害賠償責任保険の加入促進

近年、自転車利用者が事故の加害者となって高額な賠償を請求されるケースも見られることから、自転車損害賠償責任保険の重要性と加入の必要性について周知啓発に努めます。

自転車で 健康増進 エコライフ

平成29年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品



9 自転車ルール・マナーの啓発

＜主な担当課・関係課：都市交通対策課、生活安全・男女共同参画課、学校教育課＞

すべての市民に対し、自転車ルール・マナーについての正しい理解を促すとともに、各関係機関と連携しながら、自転車の安全利用に関する啓発に取り組みます。これに当たっては、より効果的な手法を検討するよう努めます。

(1) 自転車安全利用五則の周知

自転車のルールの中で特に重要な「自転車安全利用五則」について市民へ周知し、自転車の安全利用を促進します。

■ 自転車安全利用五則について

自転車安全利用五則

- ① 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ④ 安全ルールを守る
- ⑤ 子どもはヘルメットを着用

※「自転車安全利用五則」とは、道路交通法に定められた自転車のルールを国民に分かりやすく伝えるために、大きく5つに整理されたものです。自転車の安全利用促進を目的に、全国共通で活用されています。

自転車の安全ルール

- ◆ 飲酒運転は禁止
- ◆ 二人乗りは禁止（幼児2人同乗用自転車やタンDEM車等、大分県道路交通法施行細則で認められる場合を除く）
- ◆ 並進は禁止（標識で認められている場合を除く）
- ◆ 夜間はライトを点灯
- ◆ 信号を守る
- ◆ 一時停止の標識を守る

※傘さし運転、携帯電話を使用しながらの運転、ヘッドホン等で大音量の音楽を聴きながらの運転も、大分県道路交通法施行細則で禁止されています。

自転車は **車道が原則** **歩道は例外**
車道の左側を通行

※歩道を走っても良い例外

- ・ 標識で認められているとき。
- ・ 13歳未満の子ども
- ・ 70歳以上の高齢者
- ・ 身体の不自由な人
- ・ 車道が危険なとき。

が自転車を運転するとき。

子どもは **ヘルメットを着用**

自転車安全利用五則ではありませんが...
大人もヘルメットを着用しましょう。

安全な距離の目安は **1.5m**

車も **気をつけてください。**

歩道は **車道寄りを徐行** **歩行者優先**



(2) 世代に応じた自転車ルール・マナーの啓発

これまで同様に小中学生、高校生に向けた取組を継続するとともに、今後は特に高齢者向けの取組の充実を図るなど、各世代に対する自転車ルール・マナーの啓発を推進します。

① 小中学生向けの取組

公道で自転車に乗り始める小学生から中学生を対象に、自転車安全利用五則など、必要な知識を身につけてもらうための「おでかけ自転車マナーアップ教室」を実施します。

■ おでかけ自転車マナーアップ教室



② 高校生向けの取組

各警察署と連携して、「自転車マナーアップ推進モデル校」の指定を行い、学校、生徒会等と連携した街頭啓発活動など、自主的な取組を促進します。

③ 一般、高齢者向けの取組

警察や関係団体と連携して、幼児とその保護者等を対象とした安全教育のほか、自転車の安全利用や鍵かけの徹底を呼びかける街頭啓発、ドライバーに対する自転車に配慮した運転の心がけの周知啓発等を行います。

また、運転免許を返納する高齢者が増加することに伴い、高齢者にとって自転車がますます重要な移動手段となることが見込まれる一方、運動能力の衰えにより危険が伴うことから、高齢者を対象とした実技指導も含めた講座等の実施を検討します。

■ 「おもいやり 1.5m 運動」ロゴ



資料：愛媛県

■ 「おもいやり SHARE THE ROAD 運動」ロゴ



資料：横浜市



（3）自転車ヘルメット着用の促進

自転車死亡事故では頭部を損傷する割合が高く、子どもに限らずすべての人が自転車に乗る際にヘルメットをかぶることが望ましいことから、自転車ヘルメットの着用とその意義を市民に幅広く周知します。

①自転車ヘルメット着用促進の啓発

イベント開催時に自転車ヘルメットを展示し、実物に触れる機会を設けるなど、あらゆる機会を通して、自転車ヘルメットとその着用の必要性について啓発します。

特に、中学生、高校生は自転車を利用する機会が多い一方、格好や髪形を気にして着用には抵抗があるとの意見があることから、学校やメーカー等と連携して、多様なデザインのヘルメットがあることを周知すること等を通して、着用促進に努めます。

■自転車ヘルメットの展示



（本計画の第1回策定委員会時に展示）

②自転車ヘルメットの着用促進策の検討

自転車ヘルメットの購入費に対する補助制度など、着用を促進するための方策について検討します。

また、自転車ヘルメットの着用に加え、自転車損害賠償責任保険の加入を義務付ける（仮称）自転車安全利用条例の制定を検討します。

（4）通学路等の安全の確保

①通学路の安全点検の実施

自転車通学の視点を踏まえた通学路の安全点検の実施を、学校やPTA等の関係機関へ呼び掛けます。過去に自転車事故が発生したポイント、道路の段差や劣化、児童・生徒が危険と感じる場所等の情報を共有するとともに、道路の補修等について緊急性が高い箇所がある場合は、道路管理者に早急に要請します。

②危険箇所マップの作成

安全点検等で確認された危険箇所等を自転車通学する生徒へ周知するため、自転車通学者向けの危険箇所マップの作成について学校やPTA等の関係機関へ呼び掛けます。



10 災害時の自転車活用方策の検討

＜主な担当課・関係課：都市交通対策課、防災危機管理課＞

東日本大震災の被災地において発災後の移動手段として自転車の利用が増加していることに加え、今後発生が予想される南海トラフ地震など大規模地震が発生した場合は、公共交通機関の運行停止や燃料の供給不足等により移動手段が限定されることが考えられることから、災害時における自転車の有用性が注目されています。こうしたことを踏まえ、災害の発生時に自転車を活用する方策について検討します。

（１）災害時に備えた市職員の自転車利用の促進

市職員は、災害が発生した場合には、公共交通機関の利用が困難となることを見込まれるため、状況に応じて自転車等を活用し参集することとされていることから、職場内広報紙「ジテツウ」等を通して自転車通勤を促進します。

（２）災害発生時における放置自転車等の活用

保管期限を過ぎた放置自転車等の一部を整備して市庁舎等に保管するなど、大規模災害時に市職員が現地調査等に自転車を活用することについて検討します。

（３）災害発生時におけるシェアサイクルの活用

シェアサイクル事業者と連携して、大規模災害時に市職員の緊急移動手段としてシェアサイクルを活用することについて検討します。

自転車走るとみつかると小さな自然

平成30年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品

鼻唄のリズムに合わせてペダル踏む

平成30年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

サドルあげこいでるぼくは大人デビュー

令和元年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品



第7章 推進体制





1 本計画の推進

大分市では、自転車利用の推進に当たり、広く市民の意見を聴くため、学識経験者や関係団体の代表者等により構成される「大分市自転車利用推進懇話会」を設置し、「大分市自転車利用基本計画」に基づく事業の評価を行ってきました。本計画についても、これまでと同様に、毎年度「大分市自転車利用推進懇話会」に各事業の進捗状況や指標の達成状況を報告し、評価を受けることとします。

また、市内における本計画の推進に関する事項の検討については、関係課により組織した「大分市自転車活用推進計画市内検討委員会」において行うこととします。

2 本計画のアクションプラン（下位計画）の推進

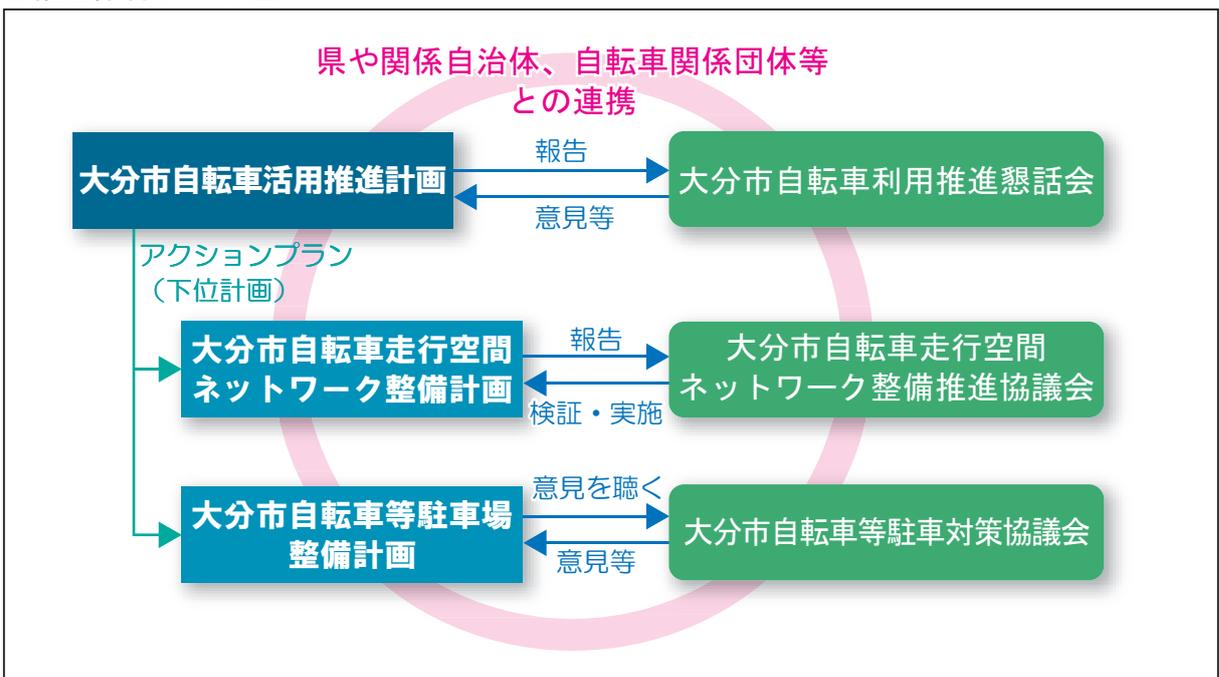
本計画のアクションプラン（下位計画）である「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の推進に当たっては、「大分市自転車走行空間ネットワーク整備推進協議会」において、各事業の進捗状況の確認や検証等を行います。

また、「大分市自転車等駐車場整備計画」の推進に当たっては、必要に応じて、「大分市自転車等駐車対策協議会」に意見を聴くこととします。

3 県や関係自治体、関係団体等との連携

本計画の推進に当たり、広域的な観点から事業を実施する場合はもとより、各事業を効率的かつ効果的に展開するため、また相乗効果が得られるよう、県や関係自治体をはじめ、自転車に関する各団体との積極的な連携を図ります。

■ 推進体制イメージ図





資料編

1 策定体制

■大分市自転車活用推進計画策定委員会 委員名簿

所属・役職	氏名
国立大学法人 大分大学 理工学部 教授	松尾孝美
独立行政法人国立高等専門学校機構 大分工業高等専門学校 都市・環境工学科 教授	田中孝典
国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所 技術副所長	藤原史武
大分県 土木建築部 道路建設課 課長	種蔵史典
大分県警察本部 交通規制課 課長	崎尾敬
大分市自転車競技連盟 理事長	姫野雅道
有限会社コダマ 代表取締役社長	児玉憲明
大分市PTA連合会 理事	平本泉
医療法人輝心会 大分循環器病院 副院長	内田和宏
大分地区高等学校指導連合会 理事長	松田雄一
一般社団法人 大分県バス協会 専務理事	脇紀昭
一般社団法人 大分県タクシー協会 専務理事	渡邊憲一
九州旅客鉄道株式会社 大分支社 副支社長	川地修司
一般社団法人 大分市観光協会 専務理事	早瀬康信
大分商工会議所女性会 専務理事	新垣幸代
大分市自治委員連絡協議会 会長	荒金一義
大分ケーブルテレコム株式会社	工藤友美
大分市自転車利用推進懇話会 委員	廣瀬菜美子
大分市 土木建築部 部長	広瀬淳三
大分市 都市計画部 部長	清水剛
大分市教育委員会 教育部 部長	佐藤雅昭

2 策定の経緯

■策定の経緯

年	月日	策定の経緯
平成31年	3月～5月	アンケートの実施
令和元年	10月16日	大分市自転車活用推進計画策定委員会 第1回会議
	11月25日	大分市自転車活用推進計画策定委員会 第2回会議
令和2年	1月28日	大分市自転車活用推進計画策定委員会 第3回会議
	2月10日～ 3月9日	パブリックコメントの実施
	3月27日	大分市自転車活用推進計画策定委員会 第4回会議

3 アンケート調査結果 ※主な内容の抜粋

(1) 調査の概要

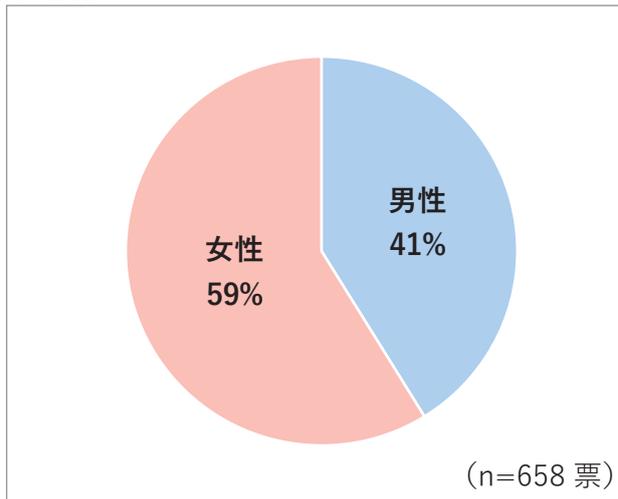
回収率は41%であり、大分市で実施している他のアンケート調査の平均的な回収率（概ね3割強）と比べて高いため、自転車施策への市民の関心が高いことを示している可能性があります。（ただし、回収率は設問の量や内容等、他の要素も影響します。）

■調査の概要

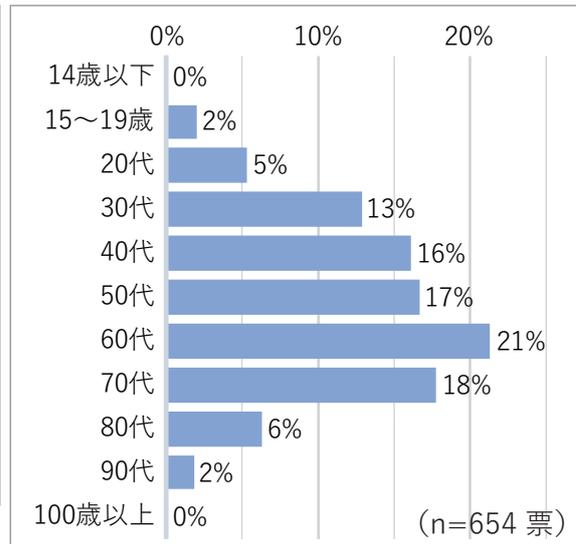
名称：大分市の自転車利用環境に関するアンケート
 方法：郵送
 期間：平成31年3月上旬～令和元年5月末（約3ヶ月間）
 対象者：大分市内に住む15歳以上の市民
 発送数：1,606部
 回収数：666票（回収率41%）

(2) 属性

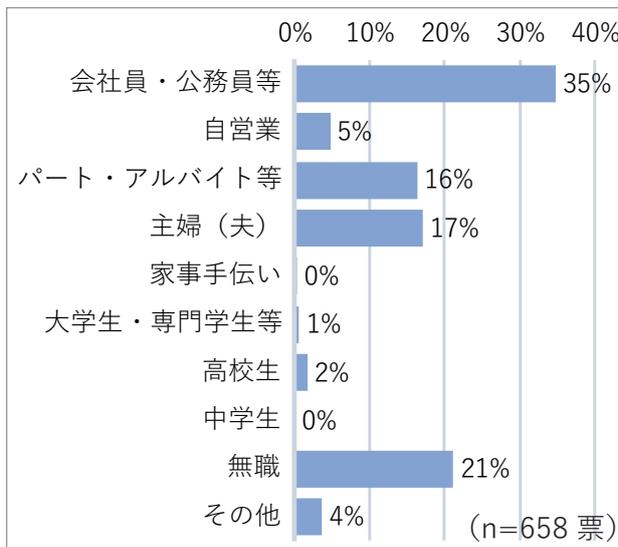
○性別



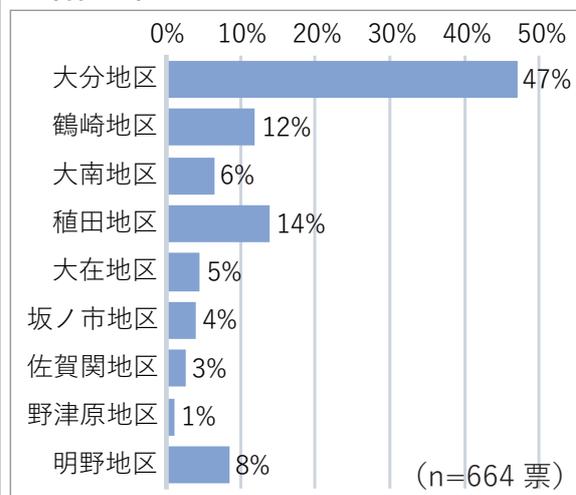
○年齢



○職業



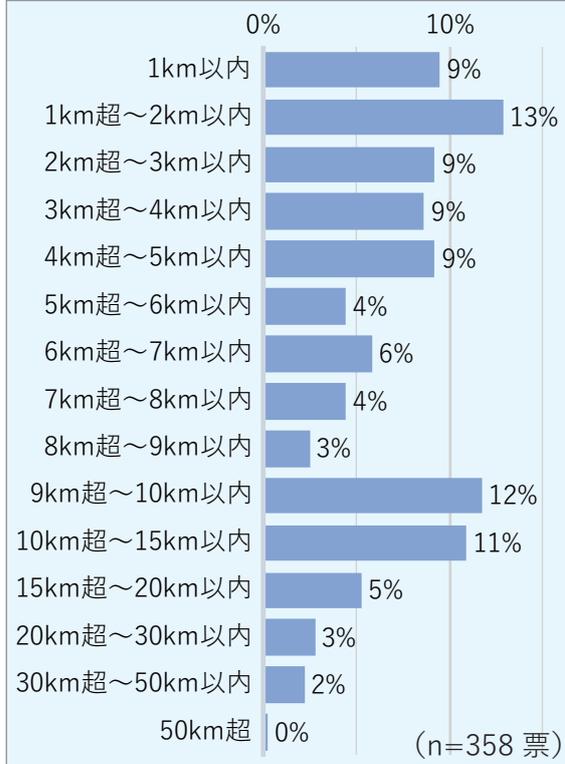
○居住地区



(3) 日常的な通勤・買い物の状況

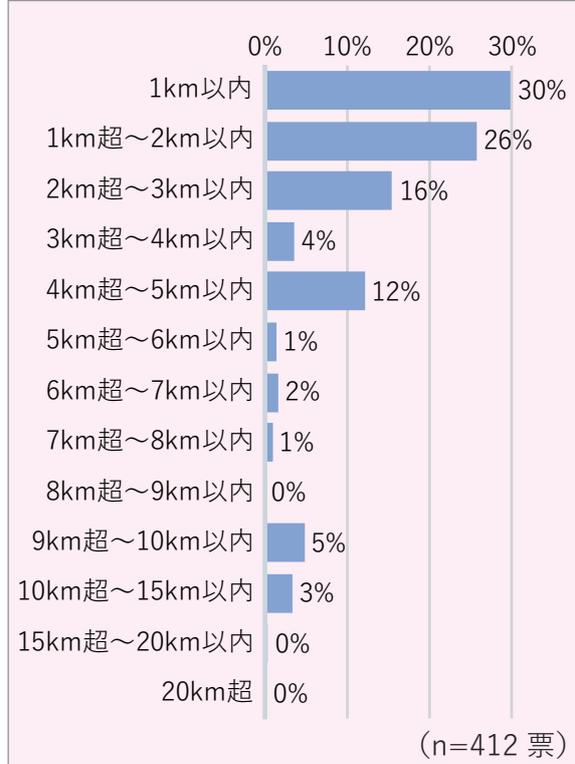
【通勤の場合】

○距離（自宅～目的地）



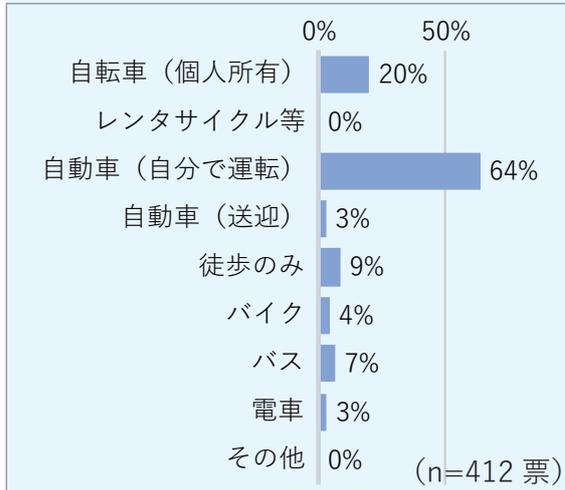
【買い物の場合】

○距離（自宅～目的地）



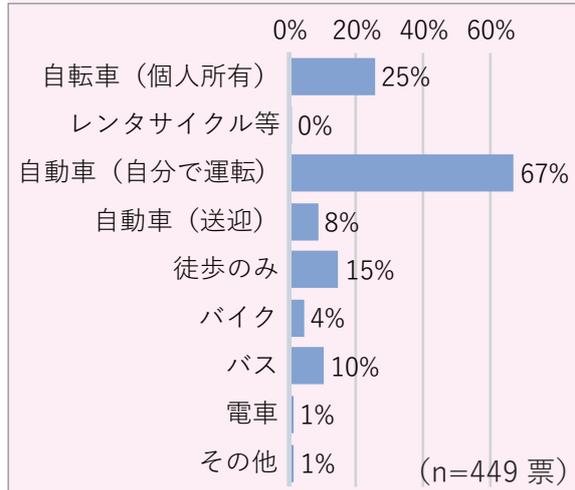
○利用交通機関

※複数回答



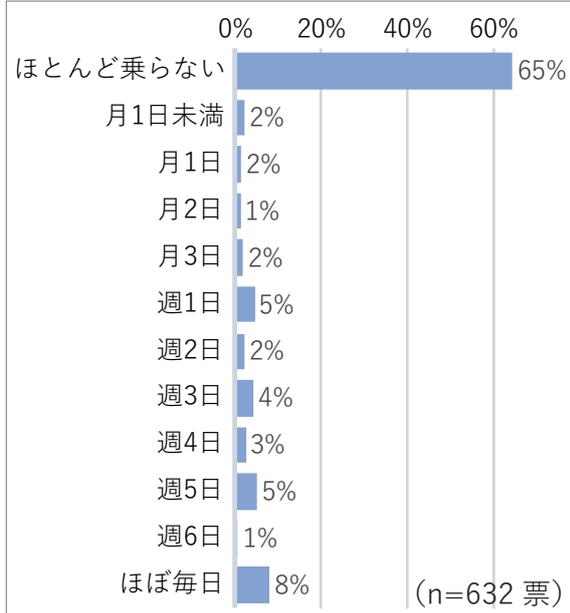
○利用交通機関

※複数回答

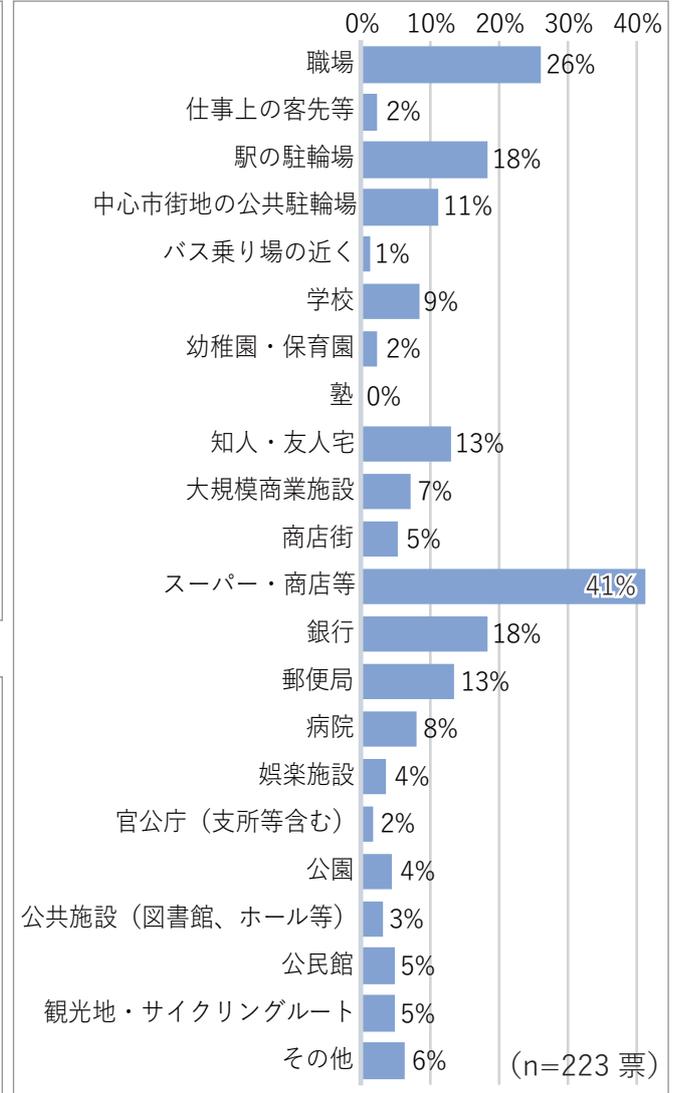


(4) 自転車の利用状況

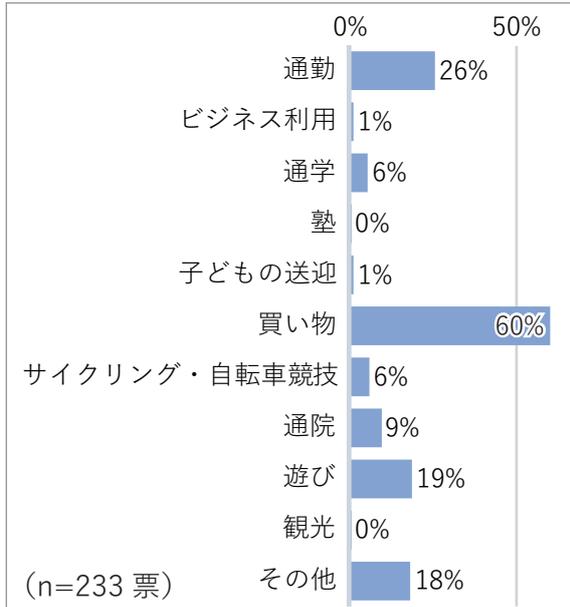
○自転車の利用頻度



○自転車の移動先

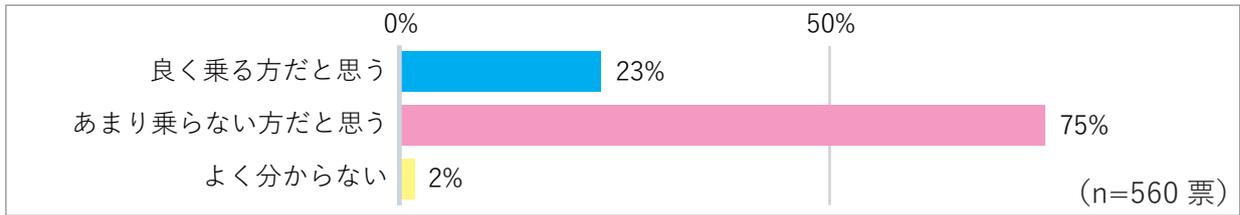


○自転車の利用目的



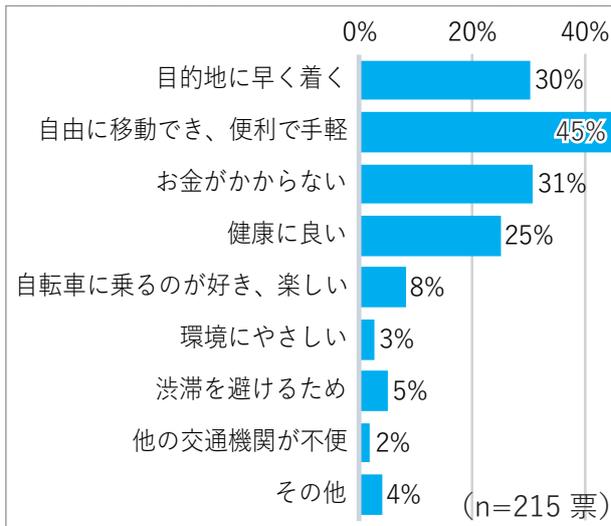
(5) 自転車への意識

○自転車利用状況への意識



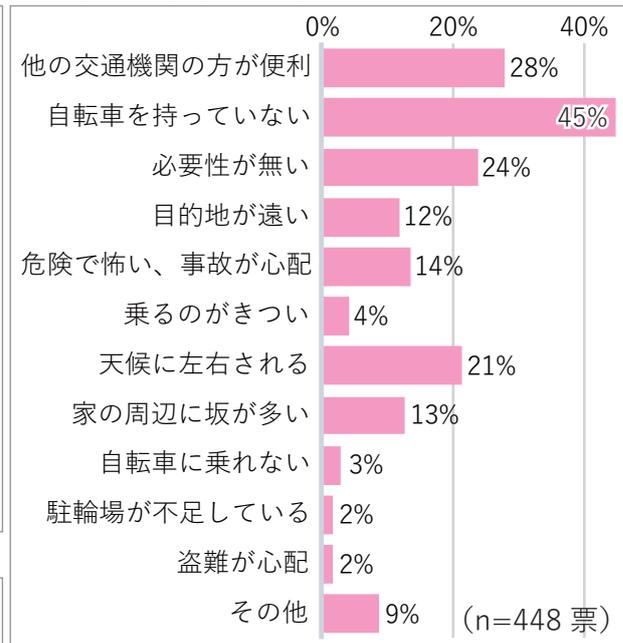
○よく乗る理由

※複数回答

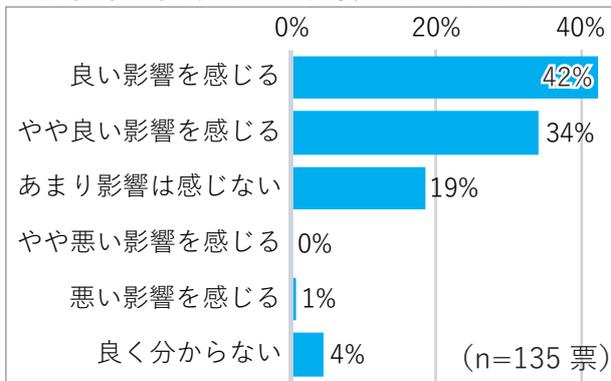


○あまり乗らない理由

※複数回答

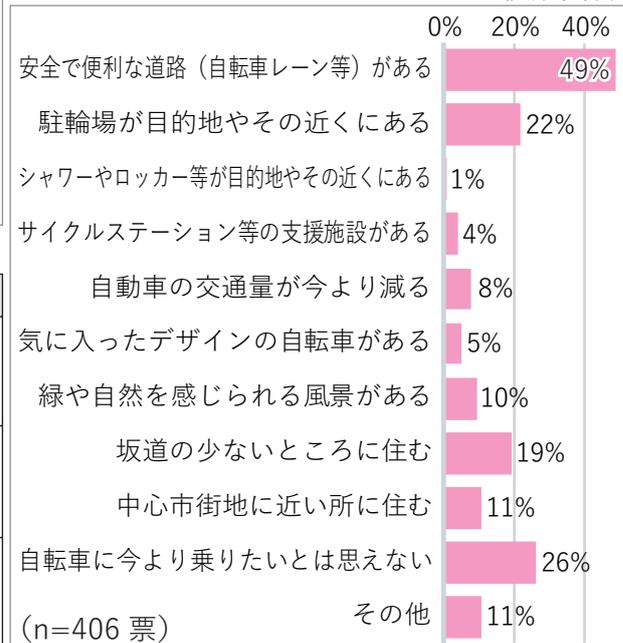


○自転車の健康等への影響をどう感じるか



○どうすれば今より自転車に乗りたいと思えるか

※複数回答



○自転車による影響の内容 ※自由回答

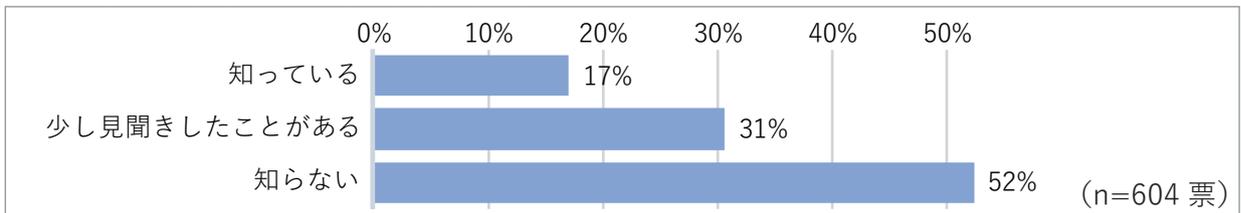
影響の内容	意見数
身体に良い等（体力向上、筋力・体調・健康の維持・回復・増進、運動不足解消、体重減または維持 等）	58
気分が良い等（気分が良い、気分転換、ストレス解消、季節や自然を感じる、街の景色を楽しむ、いい空気を吸える 等）	41
その他（判断力や注意力の向上、足が悪くても負担が少なく移動しやすい、行動範囲が広がる）	5

○自転車利用状況への意識（世代別クロス集計）

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
良く乗る方だと思う	83%	26%	23%	15%	14%	28%	33%	17%	0%
あまり乗らない方だと思う	17%	70%	76%	85%	85%	71%	63%	83%	86%
よく分からない	0%	4%	1%	0%	1%	1%	4%	0%	14%
有効回答数	12	27	74	88	100	119	95	30	7

（6）大分市のこれまでの取組等について

○大分市が自転車関連施策に積極的に取り組んでいることを知っているか



○以前（数年～10年位前）に比べて、大分市の自転車利用環境はどうなったと感じるか

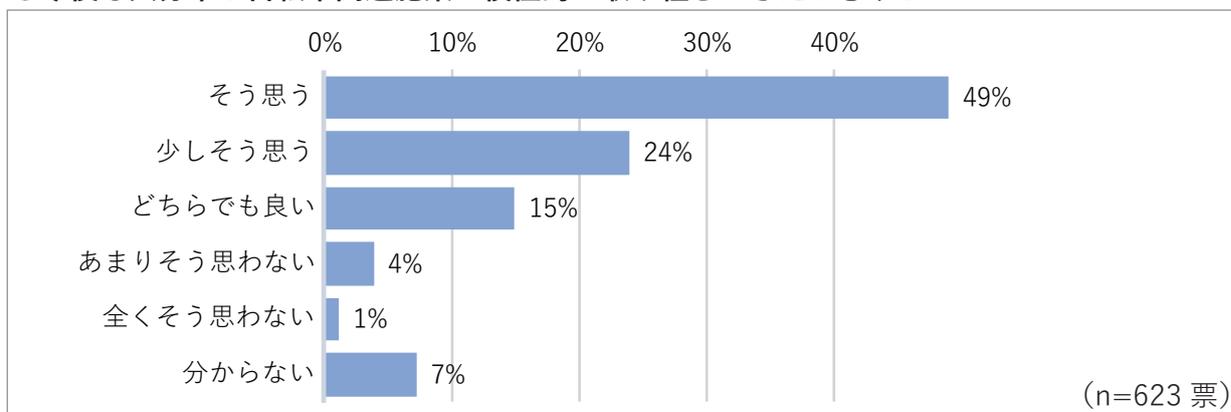
回答を、そう思う（5点）、少しそう思う（4点）、変わらない（3点）、あまりそう思わない（2点）、全くそう思わない（1点）、分からない（除外）として集計。

自転車利用環境の変化	平均点
(1) 自転車にスマートに乗る人 ^{※1} が増えた	3.23
(2) 自転車から電車やバスへの乗り換えがしやすくなった	2.60
(3) レンタサイクル等が便利になった	2.99
(4) 自転車に乗りたくなった、乗る機会が増えた	2.51
(5) 自転車で安全に走りやすくなった	2.43
(6) 自転車と自動車間の危険が減少した	2.20
(7) 自転車と歩行者間の危険が減少した	2.26
(8) 放置自転車が減った	3.29
(9) 駐輪場に停めやすくなった	3.08
(10) 自転車のルール・マナーを守る人が増えた	2.52
(11) 自転車を楽しむ大会やイベントが増えた	3.28

※1 ヘルメット着用、質やデザインの良い自転車、自転車に合うファッションやライフスタイル 等

(7) 大分市の今後の取組等について

○今後も大分市が自転車関連施策に積極的に取り組むべきだと思うか



○今後、大分市の自転車利用環境がどうなれば良いと思うか

回答を、そう思う (5点)、少しそう思う (4点)、変わらない (3点)、あまりそう思わない (2点)、全くそう思わない (1点)、分からない (除外) として集計。

今後の自転車関連事業	平均点
(1) 自転車専用の道路を増やす	4.36
(2) 大規模な駐輪場をさらに増やす	3.44
(3) 小規模な駐輪場を分散して増やす	4.07
(4) 駐輪場を有料化する	2.29
(5) サイクルステーションをつくる	3.19
(6) シェアサイクルのポートを増やす	3.36
(7) 自転車スポーツの競技施設を増やす	2.82
(8) サイクルフェス等の自転車関連イベントのさらなる拡充	2.96
(9) サイクリング環境の充実	3.49
(10) サイクルトレインの実施	3.37
(11) 自転車を活用した健康づくりに関する情報提供	3.68
(12) 自転車の利用促進等の広報活動	3.66
(13) 自転車のルール・マナー啓発や交通安全教育等の推進	4.42
(14) 災害時に自転車を活用できる取組や情報提供の推進	4.24

(8) 自由回答

意見	意見数
自転車ルール・マナーの改善に関する意見	
自転車のルール・マナー違反の具体的な指摘、自転車ルール・マナーの教育・周知等が必要（全世代）、特に中高生の自転車のマナー改善が必要 等	68票
自転車走行空間の整備に関する意見	
自転車走行空間等の道路整備が必要、交差点や歩道の段差を無くすか小さくする、道路の凹凸が多く自転車が走りにくい 等	44票
自転車利用環境の変化や現状に関する意見	
駅の駐輪場が整備されて利用しやすくなった、車と自転車が近くて危険、車道が狭い、自転車で車道を走るのが怖い 等	23票
大分市の方針と異なる意見	
自転車走行空間は歩道に位置付けるべき、大分市での自転車施策は坂が多いので無理がある 等	11票
情報提供に関する意見	
情報提供（市報等）が必要、自転車マップをつくる、駐輪場の場所を広報してほしい、市の取組をもっと広報すると良い 等	11票
高齢者になったので自転車は危険または乗れない	10票
大分市の施策の方向性等に関する意見	10票
大分市の施策を評価する意見	9票
レンタサイクル・シェアサイクルに関する意見	9票
駐輪場に関する意見	8票
自転車のメリットに関する意見	8票
車から見て自転車が危ない、迷惑等	6票
車の運転マナーが悪い	5票
自転車と観光に関する意見	4票
サイクルステーションに関する意見	4票
自転車人口が増えて事故が増えるのが心配等	3票
サイクリング環境の充実に関する意見	3票
子育て世帯を対象とした施策に関する意見	3票
サイクルトレインに関する意見	3票
小学生等が安全に自転車を練習できる公園等が欲しい	2票
自転車でお店に行くとポイントがもらえると良い	2票
子供の安全対策に関する意見	2票
防犯対策に関する意見	2票
自動車やバイクの駐車を増やすべき	2票
その他	35票

乗る前に ちょっとストップ 安全点検

令和元年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品

ペダルこぎ 一日の元気を チャージする

令和元年度標語コンクール 高校生の部 最優秀作品

観光も サイクルシェアで ひとめぐり

令和元年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

大分市自転車活用推進計画

令和2年4月

〈お問い合わせ〉

大分市 都市交通対策課
〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
TEL (097)537-5690
FAX (097)536-7719

